

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
137	明治27年	秋の部	初秋の鳶の高さよ安房の山	初秋	時候
138	明治27年	秋の部	浦人よ初秋の雑魚ありやなしや	初秋	時候
139	明治27年	秋の部	初秋の枕に近し海の音	初秋	時候
140	明治27年	秋の部	樓高し頭上をはしる天の川	天の川	天文
141	明治27年	秋の部	落潮の漁燈遥なり天の川	天の川	天文
142	明治27年	秋の部	秋風や彼も昔は二千石	秋の風	天文
143	明治27年	秋の部	秋風の砲台高し観音崎	秋の風	天文
144	明治27年	秋の部	海くれて安房の山々秋の風	秋の風	天文
145	明治27年	秋の部	秋風のいさり火消えつ海の闇	秋の風	天文
146	明治27年	秋の部	秋風の鱸肥えたる便りかな	秋の風	天文
147	明治27年	秋の部	縁に出でゝ手を組む人や秋の風	秋の風	天文
148	明治27年	秋の部	秋の風美人眼をやむ帳かな	秋の風	天文
149	明治27年	秋の部	虫の音のやむ時露の音すなり	蟲	動物
150	明治27年	秋の部	大船や霧はれて海の果もなし	霧	天文
151	明治27年	秋の部	秋風や家に白髪之母います	秋の風	天文
152	明治27年	秋の部	稻妻の竹の梢は戦ぐなり	稻妻	天文
153	明治27年	秋の部	朝顔や賣家の札に這ひかゝる	朝顔	植物
154	明治27年	秋の部	朝兒の庄屋が家や寄合衆	朝顔	植物
155	明治27年	秋の部	きり／＼す膳の縁這ふ苔屋かな	きりぎりす	動物
156	明治27年	秋の部	淋しくは爰に來て啼けきり／＼す	きりぎりす	動物
157	明治27年	秋の部	きり／＼す昔話のとぎれかな	きりぎりす	動物
158	明治27年	秋の部	促織の肩に飛びつく浴みかな	こおろぎ	動物
159	明治27年	秋の部	蜻蛉ちら／＼秋静かなる小村かな	蜻蛉	動物
160	明治27年	秋の部	海原や月更けて人樓にあり	月	天文
161	明治27年	秋の部	大原の月下をはしる鉄車かな	月	天文
162	明治27年	秋の部	大海原疊の如し星月夜	星月夜	天文
163	明治27年	秋の部	淺川の水の光りや星月夜	星月夜	天文
164	明治27年	秋の部	秋の雨旅の記をかくひとりかな	秋の雨	天文
165	明治27年	秋の部	荒海や龍王も泣く秋の雨	秋の雨	天文
166	明治27年	秋の部	大杉の梢尖れり秋の空	秋の空	天文
167	明治27年	秋の部	大海の秋静かに月あらはれぬ	秋	時候
168	明治27年	秋の部	行秋や水の底なる栗のいが	行秋	時候
169	明治27年	秋の部	茄子の花小さく咲いて秋暮れぬ	秋の暮	時候
170	明治27年	秋の部	人も見えず一犬吠えて秋くれぬ	秋の暮	時候
171	明治27年	秋の部	栗の種の我から動く夕月夜	栗	植物
172	明治27年	秋の部	水すみて雁影細き野川哉	雁	動物
173	明治27年	秋の部	雁一ツ月のあたりを飛ぶ夜哉	雁	動物
174	明治27年	秋の部	雁の声胡天に入て月落ちぬ	雁	動物
175	明治27年	秋の部	雁なくや扁舟去て水悠々	雁	動物
176	明治27年	秋の部	雁が音や月下をはしる汽車の窓	雁	動物
177	明治27年	秋の部	二三軒柿の紅葉のあはひかな	柿紅葉	植物
178	明治27年	秋の部	草紅葉一逕つきて小家かな	草錦	植物
179	明治27年	秋の部	秋高く海は白帆の往來かな	秋高し	天文
180	明治27年	秋の部	秋晴れたり船去て烟横はる	秋晴	天文
181	明治27年	秋の部	海暮れんとす秋の苔屋に烟起つ	秋	時候
182	明治27年	秋の部	里の秋うなるふみ讀む声すなり	秋	時候
342	明治28年	秋の部	さわやかに秋立つ村の草木かな	立秋	時候
343	明治28年	秋の部	曙の山近うして秋の立つ	立秋	時候

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
344	明治28年	秋の部	曙の雲に秋立つ峠かな	立秋	時候
345	明治28年	秋の部	初秋の蟬ひいと鳴いて飛びにけり	初秋	時候
346	明治28年	秋の部	初秋の人渡るなり瀬田の橋	初秋	時候
347	明治28年	秋の部	初秋の灯火并ぶ港町	初秋	時候
348	明治28年	秋の部	初秋の白河在を旅立ちぬ	初秋	時候
349	明治28年	秋の部	初秋の奥の大名登るなり	初秋	時候
351	明治28年	秋の部	初秋の君は彼方よ浪の音	初秋	時候
352	明治28年	秋の部	初秋の烟起つなり朝の村	初秋	時候
353	明治28年	秋の部	初秋の庭石ぬれて目さめたり	初秋	時候
354	明治28年	秋の部	初秋の手水に映る兒やせたり	初秋	時候
355	明治28年	秋の部	草揺れて灯火揺れて虫のなく	蟲	動物
356	明治28年	秋の部	灯青く秋の雨ふる伽藍かな	秋の雨	天文
357	明治28年	秋の部	辻堂に灯ともす人や秋の雨	秋の雨	天文
358	明治28年	秋の部	奥州の秋の并松雨暗し	秋	時候
359	明治28年	秋の部	何萬里を天の川の音もなし	天の川	天文
360	明治28年	秋の部	龕燈死し僧物いはず電光	稻妻	天文
361	明治28年	秋の部	美しくや小草の露の夕月夜	露	天文
362	明治28年	秋の部	朝露の小狐ぬれて帰るなり	露	天文
363	明治28年	秋の部	白露の我思千々に乱れける	露	天文
364	明治28年	秋の部	はら / \ と葎の露のこぼれける	露	天文
365	明治28年	秋の部	驛路の露の有明面白や	露	天文
366	明治28年	秋の部	白露のこぼれて物を思ひける	露	天文
367	明治28年	秋の部	白露の古き関所をゆくはたれ	露	天文
368	明治28年	秋の部	古道の露踏みしだき / \	露	天文
369	明治28年	秋の部	夕暮の小草花咲く野は廣し	花野	地理
370	明治28年	秋の部	夕月や家を繞りて萩の花	萩	植物
371	明治28年	秋の部	萩咲いてほの三日月の小家かな	萩	植物
372	明治28年	秋の部	雨の萩赤い女の通りけり	萩	植物
373	明治28年	秋の部	草長く灯火細し初嵐	初嵐	天文
374	明治28年	秋の部	文月の太刀佩くは誰が家の子ぞ	文月	時候
375	明治28年	秋の部	更くる夜を橡の実落る山家かな	橡の実	植物
377	明治28年	秋の部	秋風や汝と我と三千里	秋の風	天文
378	明治28年	秋の部	秋の風手はなつ蔓の哀れなり	秋の風	天文
379	明治28年	秋の部	一村は晒月夜となりにけり	月	天文
380	明治28年	秋の部	明月の瀛車路長し那須の原	名月	天文
381	明治28年	秋の部	秋の夕鳥は時に帰るなり	秋の暮	時候
382	明治28年	秋の部	里の秋このみ草のみこぼれけり	秋	時候
383	明治28年	秋の部	菅笠や秋の峠をゆくはたれ	秋	時候
384	明治28年	秋の部	この曉洗ひあげたる秋なるか	秋	時候
385	明治28年	秋の部	秋晴や鎮守の森の赤い旗	秋晴	天文
386	明治28年	秋の部	山寺の秋の灯火幽かなり	秋	時候
387	明治28年	秋の部	桐一葉此夜山僧帰来ず	桐一葉	植物
388	明治28年	秋の部	東雲や幽かに稻のそよぐ音	稻	植物
389	明治28年	秋の部	早稻の香の千疊敷を吹廻ける	稻	植物
390	明治28年	秋の部	女郎花そとば仆れて文字もなし	女郎花	植物
391	明治28年	秋の部	行秋を何國へ越ゆる順礼ぞ	行秋	時候
392	明治28年	秋の部	行く秋を誰が家の子のかしましや	行秋	時候
393	明治28年	秋の部	秋の暮鳥のつゝく何の骨	秋の暮	時候

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
395	明治28年	秋の部	行秋を恙なかりけり君も我も	行秋	時候
396	明治28年	秋の部	藁葺の屋根はら / \ と秋の風	秋の風	天文
397	明治28年	秋の部	谷川に霧吹下ろし / \	霧	天文
398	明治28年	秋の部	ほろ / \ と柳散りけりほろ / \ と	柳散る	植物
514	明治29年	秋の部	瘦犬のくぐり出でたり萩の垣	萩	植物
515	明治29年	秋の部	初秋の松杉高し城の跡	初秋	時候
516	明治29年	秋の部	城跡の草吹きまくる野分かな	野分	天文
518	明治29年	秋の部	酒壺を野分に仆すこと勿れ	野分	天文
520	明治29年	秋の部	誰が家の子ぞと呼ばれん秋の風	秋の風	天文
521	明治29年	秋の部	泣かぬ子の後ろつき見よ秋の風	秋の風	天文
522	明治29年	秋の部	行秋を宋江壁に題しける	行秋	時候
523	明治29年	秋の部	小傾城にこやかに行秋を知らず	行秋	時候
524	明治29年	秋の部	徒らに我髭伸びつ秋のゆく	行秋	時候
526	明治29年	秋の部	帰るべく帰らば新酒熟すべく	新酒	人事
527	明治29年	秋の部	いざ罷らん栗飯の腹ふくれける	栗飯	人事
528	明治29年	秋の部	菊咲いて雨風多き他國かな	菊	植物
529	明治29年	秋の部	長安に滞ること三月菊の花	菊	植物
530	明治29年	秋の部	行秋の心地死ぬべく覚えたり	行秋	時候
531	明治29年	秋の部	玉川の鮎三寸にしてさびたりな	鯖鮎	動物
532	明治29年	秋の部	宿酔や三尺の窓に富士の秋	秋	時候
533	明治29年	秋の部	國境や北を望めバ秋のゆく	行秋	時候
534	明治29年	秋の部	紅葉せり出羽奥州の峯つゞき	紅葉	植物
535	明治29年	秋の部	北國の山々見えつ未枯るゝ	未枯	植物
536	明治29年	秋の部	邯鄲の市は新酒の匂ひかな	新酒	人事
537	明治29年	秋の部	秋のふじ塔三寸の裾野かな	秋	時候
538	明治29年	秋の部	此の恨ほろりとこぼれし露の玉	露	天文
539	明治29年	秋の部	堆く小皿に盛りぬこほれ萩	萩	植物
540	明治29年	秋の部	女郎花くねりたるをばちご折れり	女郎花	植物
541	明治29年	秋の部	鬼灯の豆の如きを三ツばかり	鬼灯	植物
542	明治29年	秋の部	薄き濃き紅葉三ツ四ツ手水鉢	紅葉	植物
543	明治29年	秋の部	啼かず飛ばず鴉がぬれて秋の雨	秋の雨	天文
544	明治29年	秋の部	一人居れば丑満頃の虫が鳴く	蟲	動物
545	明治29年	秋の部	朝兒の小さな屋根に這ひのぼる	朝顔	植物
546	明治29年	秋の部	姫君は朝兒の蒼つませ給ふ	朝顔	植物
547	明治29年	秋の部	妹死んで終に此秋老いにける	暮の秋	時候
548	明治29年	秋の部	鳶飛んで天に戻るか里の秋	秋	時候
549	明治29年	秋の部	よき人の登第したり菊の花	菊	植物
550	明治29年	秋の部	瀬をはやみあはれ / \ 鮎落んとす	鯖鮎	動物
551	明治29年	秋の部	名月の船に琵琶ひく昔思ほゆ	名月	天文
552	明治29年	秋の部	僧死んで月片われぬ峯の上	月	天文
553	明治29年	秋の部	垣をあらみ朝兒の蔓ばかりなり	朝顔	植物
554	明治29年	秋の部	谷間の月に砧の舂かな	砧	人事
555	明治29年	秋の部	三日月の彼方に鹿の声すなり	鹿	動物
556	明治29年	秋の部	船頭の子はみめよくて月夜かな	月	天文
557	明治29年	秋の部	鹿笛のあはれ聞えずならんとす	鹿	動物
558	明治29年	秋の部	渋柿や三郎實語教をよむ	柿	植物
559	明治29年	秋の部	我等二人松茸を煮て句作せん	松茸	植物
560	明治29年	秋の部	塗縁に南天の実のこぼれける	南天の実	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
561	明治29年	秋の部	歌なんど嶋立澤の秋の暮	秋の暮	時候
562	明治29年	秋の部	鹿どもが藁採らんと行けば啼く	鹿	動物
563	明治29年	秋の部	急げ馬鶉もなかず日は暮れぬ	鶉	動物
564	明治29年	秋の部	啄木鳥や宮様は下馬せさせ給ふ	啄木鳥	動物
565	明治29年	秋の部	百舌の声寺子の声や申の刻	鴟	動物
566	明治29年	秋の部	小坊主が最上峯の砧かな	砧	人事
567	明治29年	秋の部	夕暮を下第の人と雁と行く	雁	動物
568	明治29年	秋の部	乗合の寝静まる時雁わたる	雁	動物
569	明治29年	秋の部	苦船の夜の雨音雁の音	雁	動物
570	明治29年	秋の部	雁をきく夜船の底の進士かな	雁	動物
571	明治29年	秋の部	江の村や夕嵐して鳥渡る	渡鳥	動物
572	明治29年	秋の部	畔をゆけば蠡三ツ四ツ飛びぬ	蠡	動物
573	明治29年	秋の部	蟻螂の戈を枕に眠るかな	蟻螂	動物
574	明治29年	秋の部	白虹日を貫いて蟻螂起つ	蟻螂	動物
575	明治29年	秋の部	蟬は小さき黒き虫にぞありける	こおろぎ	動物
576	明治29年	秋の部	蜻蛉の三十六湾日は斜	蜻蛉	動物
577	明治29年	秋の部	蜻蛉一ツ鞍をはなれぬ野道かな	蜻蛉	動物
578	明治29年	秋の部	蜻蛉や斜に長き塔の影	蜻蛉	動物
579	明治29年	秋の部	残る蚊の侮りがたき力かな	秋の蚊	動物
580	明治29年	秋の部	秋の蚊の泣く / \ 雨に出でゝ行く	秋の蚊	動物
581	明治29年	秋の部	秋の蠅承塵光りて恐ろしき	秋の蠅	動物
582	明治29年	秋の部	秋の蠅二ツ三ツ寄合ふ鞍の上	秋の蠅	動物
583	明治29年	秋の部	二ツ一ツ秋の螢の消えてゆく	秋の螢	動物
584	明治29年	秋の部	飛びもやらず秋の螢の一ツかな	秋の螢	動物
585	明治29年	秋の部	秋の蝶つれな芒にはぢかれぬ	秋の蝶	動物
586	明治29年	秋の部	恨かな小町が塚の秋の蝶	秋の蝶	動物
587	明治29年	秋の部	虫どもの夜更けて何を語るのか	蟲	動物
588	明治29年	秋の部	虫の音の草をくゞりて行方かな	蟲	動物
589	明治29年	秋の部	何虫ぞ或は一時に鳴き立つる	蟲	動物
590	明治29年	秋の部	雪洞や虫さがすちごの美しき	蟲	動物
591	明治29年	秋の部	行けど / \ 野路は虫の音ばかり	蟲	動物
592	明治29年	秋の部	蠟燭に紅葉をかざす内侍かな	紅葉	植物
593	明治29年	秋の部	欄干に白衣の客の月夜哉	月	天文
594	明治29年	秋の部	紅葉さげて中將の君立たせ給ふ	紅葉	植物
595	明治29年	秋の部	紅葉狩横川の僧都見えたるよ	紅葉狩	人事
596	明治29年	秋の部	神殿に蠟燭を傳ふ夜寒かな	夜寒	時候
597	明治29年	秋の部	渋柿や丈け小さき寺男	柿	植物
598	明治29年	秋の部	柴胡掘て見知らぬ翁帰りける	薬掘	人事
599	明治29年	秋の部	もみぢ葉の簾を撲てひるがへる	紅葉	植物
600	明治29年	秋の部	栗はねて山賊の頭領あらはれぬ	栗	植物
601	明治29年	秋の部	栗を焼く山賊の妻美なるかな	栗	植物
602	明治29年	秋の部	茸狩りて天狗を見たる噂かな	茸狩	人事
603	明治29年	秋の部	空寺や嵐三疋栗一ツ	栗	植物
604	明治29年	秋の部	いが栗をころがして来る童哉	栗	植物
605	明治29年	秋の部	栗はねて大入道と化けても見よ	栗	植物
606	明治29年	秋の部	いが栗をつかまんものとあせりける	栗	植物
607	明治29年	秋の部	乱を避けてくさびらなんど狩り暮らす	茸	植物
608	明治29年	秋の部	茸狩に吾松茸を得んとぞ思ふ	茸狩	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
609	明治29年	秋の部	白馬馬に非ずと云へば栗はねる	栗	植物
610	明治29年	秋の部	夢に木犀の下美人立てりき	木犀	植物
611	明治29年	秋の部	紅葉散る高麗縁の疊哉	紅葉	植物
612	明治29年	秋の部	明星や神前の紅葉巫女の袖	紅葉	植物
613	明治29年	秋の部	芋ひきや偶々宿る旅の僧	芋	植物
614	明治29年	秋の部	百尺の蔦這上る巖かな	蔦	植物
615	明治29年	秋の部	十文字に蔦とざしたる空家かな	蔦	植物
616	明治29年	秋の部	末枯や暮雲平かに奥州路	末枯	植物
617	明治29年	秋の部	菊咲いて朝鮮人が詩を作る	菊	植物
618	明治29年	秋の部	椎の実の八升ばかりこぼれける	椎の實	植物
619	明治29年	秋の部	亡國の志士寄合ふや菊の花	菊	植物
620	明治29年	秋の部	尾花ぼう / \ 驚破漁陽の鼙鼓起る	芒	植物
621	明治29年	秋の部	子を負て昼餉持行く芦の花	蘆の花	植物
622	明治29年	秋の部	何鳥か飛起つ芦の花月夜	蘆の花	植物
623	明治29年	秋の部	二三本鶏頭の丈の高さかな	鶏頭	植物
624	明治29年	秋の部	鶏頭の共に仆るゝ卒塔婆かな	鶏頭	植物
625	明治29年	秋の部	花もなき蓼ぼう / \ と藏やしき	蓼の花	植物
626	明治29年	秋の部	死馬の紅葉かぶりて流れける	紅葉	植物
627	明治29年	秋の部	旭出るや紅葉よりつく橋の杭	紅葉	植物
628	明治29年	秋の部	稲こきの其家の舂もと浪人	稲こき	人事
629	明治29年	秋の部	花もなき鶏頭散りぬ地藏堂	鶏頭	植物
630	明治29年	秋の部	里の子の切りさいなむや鶏頭花	鶏頭	植物
631	明治29年	秋の部	犬殺は武士の果なり稲の花	稲の花	植物
632	明治29年	秋の部	稲刈や兄弟二人睦しき	稲刈	人事
633	明治29年	秋の部	鳳仙花を人形姫に奉る	鳳仙花	植物
634	明治29年	秋の部	笑ましげに鬼灯ならす女の子	鬼灯	植物
635	明治29年	秋の部	野菊なんをかしきものにはありける	野菊	植物
636	明治29年	秋の部	盗人のいさかひすなり芒原	芒	植物
637	明治29年	秋の部	大株の芒刈られてしまひけり	芒	植物
638	明治29年	秋の部	黒い牛赤い牛居る花野哉	花野	地理
639	明治29年	秋の部	やう / \ に谷を出れば花野かな	花野	地理
640	明治29年	秋の部	ひとり来て何やら思ふ花野かな	花野	地理
641	明治29年	秋の部	芭蕉十八尺欄に上る影婆娑たり	芭蕉	植物
642	明治29年	秋の部	ふくべツいつまでも / \ さがりける	瓢	植物
643	明治29年	秋の部	笑て答へずひさごを叩く童子かな	瓢	植物
644	明治29年	秋の部	かくの如きふくべに似たるものありや	瓢	植物
645	明治29年	秋の部	がむしやむと唐辛子かむ男かな	唐辛子	植物
646	明治29年	秋の部	あれに見ゆる紅葉の山は何山か	紅葉	植物
647	明治29年	秋の部	庵せましふくべころがる二ツまで	瓢	植物
648	明治29年	秋の部	僧喝す柳は緑り唐辛子	唐辛子	植物
649	明治29年	秋の部	紅葉した漆畑を風が吹く	紅葉	植物
650	明治29年	秋の部	二三十紅葉の山の夕鴉	紅葉	植物
651	明治29年	秋の部	家古く柿の大木紅葉せり	柿	植物
652	明治29年	秋の部	伸上り紅葉折らまくほしき女	紅葉	植物
653	明治29年	秋の部	橋朽ちて兩岸の紅葉半散る	紅葉	植物
654	明治29年	秋の部	小屋の前の櫛紅葉せり水車	櫛紅葉	植物
655	明治29年	秋の部	飯や焚く村南の紅葉烟起つ	紅葉	植物
656	明治29年	秋の部	紅葉午にして木こりが娘戀を歌ふ	紅葉	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
657	明治29年	秋の部	少年詩を吟じて紅葉山下を過ぐ	紅葉	植物
658	明治29年	秋の部	夕虹の紅葉につゞく峠かな	紅葉	植物
659	明治29年	秋の部	縁に散る紅葉を掃ふ若き尼	散紅葉	植物
660	明治29年	秋の部	散紅葉真白き手して拾ひける	散紅葉	植物
661	明治29年	秋の部	一片の紅葉を千々にさく女	紅葉	植物
662	明治29年	秋の部	一漢酒を被て紅葉をゆする	紅葉	植物
663	明治29年	秋の部	岩角を打てば裂けぬべき紅葉かな	紅葉	植物
664	明治29年	秋の部	断岸を紅葉すべること数ふべからず	紅葉	植物
665	明治29年	秋の部	そばふれば紅葉さゝやく音すなり	紅葉	植物
666	明治29年	秋の部	そばぬれて紅葉をくゞる樵夫かな	紅葉	植物
667	明治29年	秋の部	暁や紅葉もこぼれ露もこぼれ	紅葉	植物
668	明治29年	秋の部	幾秋の紅葉は朽ちて何になる	紅葉	植物
669	明治29年	秋の部	大木の紅葉の下や毬の唄	紅葉	植物
670	明治29年	秋の部	童子云へらく紅葉した山に師はありと	紅葉	植物
671	明治29年	秋の部	里近し紅葉の奥の唄の声	紅葉	植物
672	明治29年	秋の部	紅葉して門長へに鎖したり	紅葉	植物
673	明治29年	秋の部	漁人帰る丹楓江上夕照す	楓	植物
674	明治29年	秋の部	見送りや紅葉の村の外れまで	紅葉	植物
675	明治29年	秋の部	一村は徴兵帰る紅葉する	紅葉	植物
676	明治29年	秋の部	紙燭して見れば紅葉がこぼれぬる	紅葉	植物
677	明治29年	秋の部	深潭や風死して紅葉散りこぼれ	紅葉	植物
678	明治29年	秋の部	大澤に紅葉飄る嵐かな	紅葉	植物
679	明治29年	秋の部	岩角にへばりつゐたる紅葉哉	紅葉	植物
680	明治29年	秋の部	乞食ども紅葉のかげにやすらへり	紅葉	植物
681	明治29年	秋の部	見て居ればボキと紅葉折る男哉	紅葉	植物
682	明治29年	秋の部	くる / \ と犬ころはしる紅葉かな	紅葉	植物
683	明治29年	秋の部	村の子が紅葉釣り寄す小川哉	紅葉	植物
684	明治29年	秋の部	据風呂や紅葉こぼるゝ蓋の上	紅葉	植物
685	明治29年	秋の部	紅葉葉のひらり / \ と舞落ちぬ	紅葉	植物
686	明治29年	秋の部	飯鍋に紅葉ちり込む山家かな	紅葉	植物
687	明治29年	秋の部	据風呂を出れば紅葉飛つきぬ	紅葉	植物
688	明治29年	秋の部	子は紅葉さげ母は野茶屋に病めりける	紅葉	植物
689	明治29年	秋の部	紅葉焼いて爛すべく酒を賣る女	紅葉	植物
690	明治29年	秋の部	鉄漿くろト\紅葉が茶屋の女笑ふ	紅葉	植物
692	明治29年	秋の部	両三軒紅葉の中の日の御旗	紅葉	植物
693	明治29年	秋の部	ところト\運動會や紅葉山	紅葉	植物
694	明治29年	秋の部	夕晴や紅葉振り / \ 馬士唄ふ	紅葉	植物
695	明治29年	秋の部	何茸か紅葉かぶりて居たりける	紅葉	植物
696	明治29年	秋の部	山段々紅葉しぬべく見えにける	紅葉	植物
697	明治29年	秋の部	ところ / \ 紅葉しぬべく病める葛	紅葉	植物
698	明治29年	秋の部	葛の葉の黄なるもあり紅なるもあり	葛紅葉	植物
699	明治29年	秋の部	川中の岩に何の木か紅葉す	紅葉	植物
700	明治29年	秋の部	大樹せず小樹尽く紅葉す	紅葉	植物
701	明治29年	秋の部	手を拍て笑へば紅葉こぼれける	紅葉	植物
703	明治29年	秋の部	此の別れ紅葉拵て微笑すべく	紅葉	植物
704	明治29年	秋の部	覺束な剋に臨める葛紅葉	葛紅葉	植物
705	明治29年	秋の部	戀なるべく紅葉の蔭に二人ゐる	紅葉	植物
706	明治29年	秋の部	屋根見えつ紅葉の村に犬吠ゆる	紅葉	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
707	明治29年	秋の部	日は照りつ紅葉の山に雨がふる	紅葉	植物
708	明治29年	秋の部	炭に焼かんと紅葉伐仆す谷間哉	紅葉	植物
709	明治29年	秋の部	蔦の葉の薄紅に恥らへり	蔦紅葉	植物
710	明治29年	秋の部	紅葉の茶屋覗けバ女病みてあり	紅葉	植物
711	明治29年	秋の部	一樹の紅葉爰に甘酒ありと有り	紅葉	植物
712	明治29年	秋の部	炭焼の娘紅葉と申す艶なり	紅葉	植物
713	明治29年	秋の部	我宿は俎板も鍋も紅葉哉	紅葉	植物
714	明治29年	秋の部	さら / \ と紅葉すべり落つ鬼瓦	紅葉	植物
716	明治29年	秋の部	我戀は渋柿の渋の渋からず	柿	植物
717	明治29年	秋の部	柳散る / \ 驛馬繫がれて物をくふ	柳散る	植物
718	明治29年	秋の部	渋柿の二ツ三ツ残る梢かな	柿	植物
719	明治29年	秋の部	渋柿の枝裂けなんとしたるを支へてあり	柿	植物
720	明治29年	秋の部	古家の柳散り / \ 日が暮れる	柳散る	植物
721	明治29年	秋の部	仙台の城下の外づれ末枯れぬ	末枯	植物
722	明治29年	秋の部	穢多村の渋柿見ゆる野中哉	柿	植物
723	明治29年	秋の部	旅人宿の灯火暗く散る柳	柳散る	植物
724	明治29年	秋の部	旗立てゝ徴兵迎ふ村の秋	秋	時候
725	明治29年	秋の部	渋柿に階子かけたる小家かな	柿	植物
727	明治29年	秋の部	草鞋買ふべく腰に銭あり暮の秋	暮の秋	時候
728	明治29年	秋の部	出水して粟の穂先を小舟漕ぐ	粟	植物
730	明治29年	秋の部	いざ起てよ萩の中道二人行かむ	萩	植物
731	明治29年	秋の部	別れても地として渋柿なからんや	柿	植物
732	明治29年	秋の部	宮城野の萩ある處まで送れ	萩	植物
733	明治29年	秋の部	一ツ宛渋柿喰ふて別れうぞ	柿	植物
735	明治29年	秋の部	初秋の乾坤朗らかに駢せよ	初秋	時候
736	明治29年	秋の部	此秋は三千の発句物すべし	秋	時候
738	明治29年	秋の部	つく / \ と踊見て居る男かな	踊	人事
740	明治29年	秋の部	秋風の大地震ふて已まざりき	秋の風	天文
741	明治29年	秋の部	がっくりと大地裂けたり秋の風	秋の風	天文
742	明治29年	秋の部	早稲の香や出羽街道は鶏の声	稲	植物
743	明治29年	秋の部	地震やむで日暮れて秋の雨がふる	秋の雨	天文
744	明治29年	秋の部	秋の雨親なき子らの泣いて行く	秋の雨	天文
745	明治29年	秋の部	二三人家失ひて秋の雨	秋の雨	天文
746	明治29年	秋の部	鶏も鳴かず地震の跡の秋の雨	秋の雨	天文
747	明治29年	秋の部	秋なれば雨なれば病みぬればこそ	秋	時候
748	明治29年	秋の部	秋雨のいつこに濡れておはすらん	秋の雨	天文
749	明治29年	秋の部	据風呂に秋の風もる庇かな	秋の風	天文
750	明治29年	秋の部	夜は長しらんぶの笠に物をかく	夜長	時候
751	明治29年	秋の部	秋の夜の夫婦いさかふ木賃かな	秋の夜	時候
752	明治29年	秋の部	芒わけて女出てたり雨の中	芒	植物
753	明治29年	秋の部	荒瀧の霧を裂くこと五百尺	霧	天文
754	明治29年	秋の部	嘯けば大澤の霧渦きぬ	霧	天文
755	明治29年	秋の部	女郎花踏みにじられて哀れなり	女郎花	植物
756	明治29年	秋の部	雨に行けばもたれんとすなり女郎花	女郎花	植物
757	明治29年	秋の部	そばふるや秋の蝶々戀もなし	秋の蝶	動物
758	明治29年	秋の部	山裂けて大木震ふ秋の風	秋の風	天文
759	明治29年	秋の部	日は西へ詮方もなし秋の蝶	秋の蝶	動物
760	明治29年	秋の部	名月や妻を娶らば正に今宵	名月	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
761	明治29年	秋の部	風やむで秋の奥州日は暮れぬ	秋	時候
762	明治29年	秋の部	ひや / \ と洪水の跡月が照る	月	天文
763	明治29年	秋の部	西の方安達太郎山霧を抜く	霧	天文
764	明治29年	秋の部	利根の濁流大霧割いて奔到す	霧	天文
766	明治29年	秋の部	夜は寒し水を隔てゝ異人唄ふ	夜寒	時候
767	明治29年	秋の部	狂人の頻りに鳴子鳴らしけり	鳴子	人事
768	明治29年	秋の部	戯れに鳴子を鳴らす異人かな	鳴子	人事
769	明治29年	秋の部	萩の花少しこぼれて三日の月	萩	植物
770	明治29年	秋の部	夜を寒み薫物くゆる廣間哉	夜寒	時候
772	明治29年	秋の部	一盆の芋皆喰ふてしまひけり	芋	植物
773	明治29年	秋の部	君見よや此水切て落さんず	落し水	地理
774	明治29年	秋の部	虫鳴くや少将戀の細道を	蟲	動物
775	明治29年	秋の部	門前を宗祇が通る芋がある	芋	植物
777	明治29年	秋の部	丹を煉る鍋かけてあり桐一葉	桐一葉	植物
778	明治29年	秋の部	小坊主が名月の鐘つかんとゆく	名月	天文
780	明治29年	秋の部	力なや地を這ふ蔦の薄紅葉	薄紅葉	植物
781	明治29年	秋の部	一面に小草の花の夕月夜	夕月夜	天文
782	明治29年	秋の部	江北へ鴉が飛んで秋暮るゝ	暮の秋	時候
783	明治29年	秋の部	秋風の猪病んで死なんとす	秋の風	天文
785	明治29年	秋の部	右左十歩ばかりの花野かな	花野	地理
786	明治29年	秋の部	鐵燈籠朽ちて虫なく夜毎かな	蟲	動物
787	明治29年	秋の部	三夜網す偶々得たる鱸かな	鱸	動物
788	明治29年	秋の部	重陽の酒壺仆す何奴ぞ	重陽	人事
789	明治29年	秋の部	稻妻や金掘る山の恐ろしき	稻妻	天文
791	明治29年	秋の部	一山の月明かに鐘黒く	月	天文
792	明治29年	秋の部	深淵にひら / \ と秋の蝶黄なり	秋の蝶	動物
793	明治29年	秋の部	未枯や黒う固まる馬の糞	未枯	植物
794	明治29年	秋の部	頬白き人の寒がるあしたかな	朝寒	時候
795	明治29年	秋の部	明星や白菊細く丈け高く	菊	植物
796	明治29年	秋の部	白露の草皆二寸ばかりなる	露	天文
797	明治29年	秋の部	白い旗赤い旗なんど里の秋	秋	時候
798	明治29年	秋の部	葉ちいさく紅み薄く哀れなり	薄紅葉	植物
799	明治29年	秋の部	白雲鶏犬秋長へに老いずもあれ	秋	時候
800	明治29年	秋の部	岩鼻や秋風白き九十九里	秋の風	天文
802	明治29年	秋の部	普請濟むで雨となりけり鶏頭花	鶏頭	植物
803	明治29年	秋の部	鶏頭のこけつ仆れつ藏普請	鶏頭	植物
804	明治29年	秋の部	塵塚や月に鶏頭丈け八尺	鶏頭	植物
805	明治29年	秋の部	塵塚や鶏頭やせてなほ赤し	鶏頭	植物
806	明治29年	秋の部	月暈あり鶏頭の影化けぬべく	鶏頭	植物
807	明治29年	秋の部	門口や左何やら右鶏頭	鶏頭	植物
808	明治29年	秋の部	ぱっさりと窓にもうし葉鶏頭	雁來紅	植物
809	明治29年	秋の部	鶏頭を逆さまに吊す小店かな	鶏頭	植物
810	明治29年	秋の部	淺ましや鶏頭の葉のむしられて	鶏頭	植物
811	明治29年	秋の部	雨つれ / \ 鶏頭十句成らんとす	鶏頭	植物
813	明治29年	秋の部	村会や台湾の稻二タ作す	稻	植物
814	明治29年	秋の部	村会の門口に菊なんどあり	菊	植物
815	明治29年	秋の部	村会や古学校のやゝ寒き	やや寒	時候
816	明治29年	秋の部	村会や渋柿落る窓の外	柿	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
817	明治29年	秋の部	野分して村会議場仆れつべく	野分	天文
818	明治29年	秋の部	芋引の村会覗く時計かな	芋	植物
819	明治29年	秋の部	村会のがらす窓破れて稲の花	稲の花	植物
820	明治29年	秋の部	村会や役人にすゝむ芋一盆	芋	植物
821	明治29年	秋の部	村会や二三人よりて秋のあめ	秋の雨	天文
822	明治29年	秋の部	末枯や村会議員皆袴	末枯	植物
823	明治29年	秋の部	重陽や偶村会して終に酒	重陽	人事
825	明治29年	秋の部	調練の輻重つゞきぬ秋の村	秋	時候
826	明治29年	秋の部	野茶屋あり吊したる柿の尻黒み	柿	植物
827	明治29年	秋の部	びいどろ欠け散らばりつ末枯るゝ	末枯	植物
828	明治29年	秋の部	柿を隣り空瓶の棚傾きつ	柿	植物
829	明治29年	秋の部	店先や空瓶ころがり秋の蠅	秋の蠅	動物
830	明治29年	秋の部	渋柿や屋根葺換ふる煤くろく	柿	植物
831	明治29年	秋の部	いたいけに紅葉しかゝる轍かな	紅葉	植物
832	明治29年	秋の部	百舌鳥なくや草の実むしる乞食の子	鴟	動物
833	明治29年	秋の部	蓮の実飛んで大に笑ふ男あり	蓮實飛ぶ	植物
834	明治29年	秋の部	刈稻の中に飯喰ふ男かな	稻刈	人事
835	明治29年	秋の部	紅葉せよ我妻酒をかもすべく	紅葉	植物
836	明治29年	秋の部	七八人赤裸々なるが鰯引く	鰯引	人事
837	明治29年	秋の部	雁が音や燕王賢を招くときく	雁	動物
838	明治29年	秋の部	帯にはさむ栗こぼしたる娘かな	栗	植物
839	明治29年	秋の部	水とん / \ 鶺鴒の尾たらし / \	鶺鴒	動物
840	明治29年	秋の部	花白く莖赤き之をなんそば	蕎麥花	植物
841	明治29年	秋の部	鯉も出でつゐもりも出でつ秋の虹	秋の虹	天文
842	明治29年	秋の部	句集あみて栗飯と題せんはいかに	栗飯	人事
843	明治29年	秋の部	奉納の手拭吊るす紅葉かな	紅葉	植物
844	明治29年	秋の部	末枯や赤く彫りたる不動尊	末枯	植物
845	明治29年	秋の部	末枯の藪も畑も夕日かな	末枯	植物
846	明治29年	秋の部	薄暗し知らず木の実か草の実か	雑	雑
847	明治29年	秋の部	石壇や登りも果てず木の実落つ	木の實	植物
848	明治29年	秋の部	晝棟さびて老樹更に紅葉せず	紅葉	植物
849	明治29年	秋の部	地にあれば末枯るゝなり比翼塚	末枯	植物
850	明治29年	秋の部	百舌鳥なくや女大勢不動に詣づ	鴟	動物
851	明治29年	秋の部	末枯れて不動の臍の細る思ひ	末枯	植物
853	明治29年	秋の部	願はくは新酒の酔の三十里	新酒	人事
854	明治29年	秋の部	毒茸は喰はず遙かに酒許せ	茸	植物
855	明治29年	秋の部	其芒なければ淋しかるべきか	芒	植物
856	明治29年	秋の部	其芒なければ淋しかるべきか	芒	植物
857	明治29年	秋の部	少年の紅葉に狂すときかば我	紅葉	植物
858	明治29年	秋の部	少年の紅葉に狂すときかば我	紅葉	植物
859	明治29年	秋の部	渋柿を喰ふてしまへば帰るなり	柿	植物
860	明治29年	秋の部	渋柿を喰ふてしまへば帰るなり	柿	植物
861	明治29年	秋の部	君来らず栗飯少し残りける	栗飯	人事
863	明治29年	秋の部	去って栗留って酒いづれ秋	秋	時候
865	明治29年	秋の部	路ばたの紅葉ゆすらば出でゝ見よ	紅葉	植物
866	明治29年	秋の部	もみぢはの二片三片枝にあり	紅葉	植物
867	明治29年	秋の部	洪水や月を浸して押寄する	月	天文
868	明治29年	秋の部	二三人頬冠りして月に行く	月	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
869	明治29年	秋の部	明月や檜棒廻はず法師原	名月	天文
10614	明治29年	秋の部	野分吹く矢留の城の草長し	野分	天文
10615	明治29年	秋の部	稲の香の吹き廻はるなり大広間	稲の香	植物
10616	明治29年	秋の部	澄む山や月地震の後の腥	月	天文
10617	明治29年	秋の部	風ひや / \ 大地裂けたるあはひ哉	冷ゆ	時候
10618	明治29年	秋の部	谷暗し昼の稲妻割りて入る	稲妻	天文
10619	明治29年	秋の部	稲妻や地震の跡の仮屋々々	稲妻	天文
10620	明治29年	秋の部	稲妻の顔見合はする人もなし	稲妻	天文
10621	明治29年	秋の部	秋さめの何処を濡れて迎るらむ	秋雨	天文
10622	明治29年	秋の部	稲妻や大きな家の仆れてある	稲妻	天文
10623	明治29年	秋の部	稲妻の中夜哭声四方に起る	稲妻	天文
10624	明治29年	秋の部	秋雨や中夜哭声四野に満つ	秋雨	天文
10625	明治29年	秋の部	稲妻の奥州山河五十四郡	稲妻	天文
10626	明治29年	秋の部	やむ人の枕並べて秋の風	秋の風	天文
10627	明治29年	秋の部	仮小屋の秋さめに病む女の子	秋雨	天文
10628	明治29年	秋の部	朝寒の松原通るひとりかな	朝寒	時候
10629	明治29年	秋の部	隧道をくぐれば蕎麦の花三(寸)カ	蕎麦の花	植物
10630	明治29年	秋の部	西の方蕎麦の花咲く里一つ	蕎麦の花	植物
10631	明治29年	秋の部	そこのけよあゝら長安一片の月	月	天文
10632	明治29年	秋の部	名月や背戸の畑に風呂たい(たり)カ	名月	天文
10633	明治29年	秋の部	朝顔の蔓細く花小さなる	朝顔	植物
10634	明治29年	秋の部	名月や土蔵の蔭は薄暗く	名月	天文
10635	明治29年	秋の部	名月や五升樽提げて其角く(る)カ	名月	天文
10636	明治29年	秋の部	名月の焼芋かぢり / \ ゆく	名月	天文
10637	明治29年	秋の部	二三人名月の門を出でゝゆく	名月	天文
10639	明治29年	秋の部	三日月の西方十万憶土哉	三日月	天文
10640	明治29年	秋の部	名月や傾城たんねんと薫物(す)カ	名月	天文
10641	明治29年	秋の部	蚯蚓の尾を切るなよと申しける	蚯蚓	動物
10642	明治29年	秋の部	踊子の戻ればもとの禅の寺	踊り子	人事
10643	明治29年	秋の部	秋風や草鞋買ふべき腰の銭	秋風	天文
10644	明治29年	秋の部	紅葉手にして村女頻りに恋を歌ふ	紅葉	植物
10645	明治29年	秋の部	人なども紅葉の陰にやすらへり	紅葉	植物
10646	明治29年	秋の部	嵐して紅葉散り込む谷の水	紅葉	植物
10647	明治29年	秋の部	何と云ふか城下のはづれ末枯れし	末枯	植物
10648	明治29年	秋の部	谷間や紅葉舞上る夕あらし	紅葉	植物
10649	明治29年	秋の部	君が代は渋柿ならぬ里もなし	渋柿	植物
10651	明治29年	秋の部	笹原を稲妻切てまはりける	稲妻	天文
10652	明治29年	秋の部	茸狩を御息所のいなみ玉ふ	茸狩	人事
10654	明治29年	秋の部	夜に入れば蠟燭立てゝ菊見哉	菊見	人事
10655	明治29年	秋の部	橋杭に紅葉の枝の流れよる	紅葉	植物
10612	明治29年	秋の部	子規おらがとぶろく呑みに来よ	どぶろく	人事
10638	明治29年	秋の部	舟歌は聞えずなりて夜さむし	夜さむし	天文
10653	明治29年	秋の部	馬を馳す八州の野は末枯れぬ	末枯	植物
1373	明治30年	秋の部	癩病の小屋を出て薬煮る月夜かな	月	天文
1374	明治30年	秋の部	病むちごの月にも芋にもむづかりぬ	雑	雑
1375	明治30年	秋の部	病みやせてひとり灯籠の下に立つ	燈籠	人事
1376	明治30年	秋の部	客にして病み再び秋に逢へる悲し	秋	時候
1377	明治30年	秋の部	鱸さげて漁師が娘医師を訪ふ	鱸	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1378	明治30年	秋の部	病やゝ怠りつ氣秋に入る	秋	時候
1379	明治30年	秋の部	立秋を東隣の病者詩を吟ず	立秋	時候
1380	明治30年	秋の部	七夕に病んで物かく女かな	七夕	人事
1381	明治30年	秋の部	病を力め魂祭るべく灯ともしつ	魂祭	人事
1382	明治30年	秋の部	創をつゝむで稻妻に立つ男かな	稻妻	天文
1383	明治30年	秋の部	稻妻に病兵多き野陣かな	稻妻	天文
1384	明治30年	秋の部	落武者のちんばひとりゆく野分かな	野分	天文
1385	明治30年	秋の部	小角力の薬煮てゐる旅籠かな	角力	人事
1386	明治30年	秋の部	朝顔に薬を煮る男鰥にして迂	朝顔	植物
1387	明治30年	秋の部	夕暮を病める角力の馬で来る	角力	人事
1388	明治30年	秋の部	病院の庭に虫なく寐覚かな	蟲	動物
1389	明治30年	秋の部	いとゞ病める身にしむや起て内に入る	身に入む	時候
1390	明治30年	秋の部	医者 of 興木槿咲いたる門に入る	木槿	植物
1391	明治30年	秋の部	縁側に薬鍋を持出でつ月を見る	月	天文
1392	明治30年	秋の部	雁が音の去年は越路に病みたりし	雁	動物
1393	明治30年	秋の部	門前を医者 of 興いそぐ秋の暮	秋の暮	時候
1394	明治30年	秋の部	病めるにかあらん案山子が倒れゐる	案山子	人事
1395	明治30年	秋の部	医者 of 門に順礼の子や秋の暮	秋の暮	時候
1396	明治30年	秋の部	君が病に鱸鮮けきなどがよし	鱸	動物
1397	明治30年	秋の部	只ひとり鳴立澤の湯治かな	鳴	動物
1398	明治30年	秋の部	枕上の薬瓶を引寄す夜半の秋	秋の夜	時候
1399	明治30年	秋の部	疫をやむ村に砧の音もなし	砧	人事
1400	明治30年	秋の部	明月の土手をいざりの車行く	名月	天文
1401	明治30年	秋の部	病む人の菊に目さむる廣間かな	菊	植物
1402	明治30年	秋の部	腫物の顔仰向けて月見かな	月見	人事
1403	明治30年	秋の部	眼を病みつ童して白菊手折らしむ	菊	植物
1404	明治30年	秋の部	白髪にして古法を講ず菊の花	菊	植物
1405	明治30年	秋の部	醫者の庭に殊に菊咲く赤き菊	菊	植物
1406	明治30年	秋の部	菊の露に丹を煉るべく菊畑	菊	植物
1407	明治30年	秋の部	薬掘の月夜に帰る梁甫吟	薬掘	人事
1408	明治30年	秋の部	看病やひとり夜寒の枕元	夜寒	時候
1409	明治30年	秋の部	長き夜を暁方に誕生す	夜長	時候
1410	明治30年	秋の部	貧道士の病を呪ふ夜寒かな	夜寒	時候
1411	明治30年	秋の部	病む乳児の銀杏に笑むぞ嬉しき	銀杏	植物
1412	明治30年	秋の部	病める汝に唐辛を與へんか	唐辛子	植物
1413	明治30年	秋の部	貧なる医の松茸を狩りに出でし	松茸	植物
1414	明治30年	秋の部	足駄穿いて月夜に帰る按摩かな	月	天文
1415	明治30年	秋の部	疝氣ある人の先づ吟じ帰る月見かな	月見	人事
1416	明治30年	秋の部	病を忘れ汝と酌み合ふ新酒かな	新酒	人事
1417	明治30年	秋の部	縁端に松茸を干す医者が妻	松茸	植物
1418	明治30年	秋の部	薬掘て里に出でたる道士かな	薬掘	人事
1419	明治30年	秋の部	多病にして白菊多く作りにし	菊	植物
1420	明治30年	秋の部	村に住んで松茸の友に医者を得つ	松茸	植物
1421	明治30年	秋の部	或時は松露或時は茯苓を突く	雜	雜
1422	明治30年	秋の部	安産や秋の夜中をどよめきぬ	秋の夜	時候
1423	明治30年	秋の部	秦淮の残月夢に似たるかな	有明月	天文
1425	明治30年	秋の部	滝涸れつ天の川の斜なり	天の川	天文
1426	明治30年	秋の部	黒雲の天の川を絶つ夜半かな	天の川	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1427	明治30年	秋の部	谷底に仰いで天の川を見る	天の川	天文
1428	明治30年	秋の部	遠の灯や暁方の天の川	天の川	天文
1429	明治30年	秋の部	壇上や銀河に對し香を炷く	天の川	天文
1430	明治30年	秋の部	逢はぬ戀鶏鳴きあけの露深み	露	天文
1431	明治30年	秋の部	長き夜を動かざる佛師が影法師	夜長	時候
1432	明治30年	秋の部	艸むらや偶々きちかうの白き咲く	桔梗	植物
1433	明治30年	秋の部	異人館に夜な / \ 踊る音すなり	踊	人事
1434	明治30年	秋の部	朝兒に半月白き戸口かな	朝顔	植物
1435	明治30年	秋の部	冷かや汀に立てば星が飛ぶ	流星	天文
1436	明治30年	秋の部	和蘭の波止場で秋の風に逢ふ	秋の風	天文
1438	明治30年	秋の部	行く / \ や松虫吟じ鈴虫和す	雑	雑
1439	明治30年	秋の部	薬掘て日暮に帰る人あやし	薬掘	人事
1440	明治30年	秋の部	虫賣と連立て終に市に入る	蟲賣	人事
1441	明治30年	秋の部	重箱の埃掃ひつ今朝の秋	今朝の秋	時候
1442	明治30年	秋の部	店を過ぎり南瓜の不具なるを憎む	南瓜	植物
1443	明治30年	秋の部	明窓淨几朝兒の巻をかゝむかな	朝顔	植物
1445	明治30年	秋の部	妾宅に小さき灯籠つるしたり	燈籠	人事
1446	明治30年	秋の部	灯籠に芒かぶさる小家かな	燈籠	人事
1447	明治30年	秋の部	川を隔て暁方の高灯籠	燈籠	人事
1448	明治30年	秋の部	日くれて灯籠の町に入りぬ	燈籠	人事
1449	明治30年	秋の部	兩岸の灯籠を見て下りけり	燈籠	人事
1450	明治30年	秋の部	家毎に赤き灯籠吊したり	燈籠	人事
1451	明治30年	秋の部	沈香亭に灯籠つるしひとりゐる	燈籠	人事
1452	明治30年	秋の部	草家二軒中に灯籠の高き立つ	燈籠	人事
1453	明治30年	秋の部	川風に灯籠消えてしまひけり	燈籠	人事
1454	明治30年	秋の部	清人の亭に灯籠つるしたり	燈籠	人事
1455	明治30年	秋の部	いくさあり灯籠つるす家もなし	燈籠	人事
1456	明治30年	秋の部	揚屋町の灯籠見れば美しくしき	燈籠	人事
1457	明治30年	秋の部	斥候の高灯籠を打見やる	燈籠	人事
1459	明治30年	秋の部	くさいろ / \ 秋いろ / \ の花咲きぬ	秋	時候
1461	明治30年	秋の部	一人ゆけば小萩が野辺を雨がふる	萩	植物
1462	明治30年	秋の部	暮に出でゝ萩咲けるあたり人戀し	萩	植物
1463	明治30年	秋の部	男萩丈高く暁に露けしや	萩	植物
1464	明治30年	秋の部	女萩とかや細やかにして花咲ける	萩	植物
1465	明治30年	秋の部	萩寺の萩盛りなり二三日	萩	植物
1466	明治30年	秋の部	馬に喰はれ少し花咲く萩の株	萩	植物
1467	明治30年	秋の部	萩長くして灯籠に達すべく	萩	植物
1468	明治30年	秋の部	寺に寐て五更に萩の露の音	萩	植物
1469	明治30年	秋の部	雨の中を一荷尽く萩の花	萩	植物
1470	明治30年	秋の部	花まばらに丈徒らに長き萩	萩	植物
1472	明治30年	秋の部	兄弟が一斗の粟を搗て居る	粟	植物
1473	明治30年	秋の部	雲高み山畑の粟黄に熟す	粟	植物
1474	明治30年	秋の部	川に沿ひ夕日が岡の粟黄なり	粟	植物
1475	明治30年	秋の部	はら / \ と露こぼす穂や粟月夜	粟	植物
1476	明治30年	秋の部	粟の中に抜け出でし稗を風が吹く	粟	植物
1478	明治30年	秋の部	道にして大霧に咽び上り得ず	霧	天文
1479	明治30年	秋の部	どう / \ と狭霧の中の水車	霧	天文
1480	明治30年	秋の部	浦風の狭霧を吹くや沖の方	霧	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1481	明治30年	秋の部	暁や霧が小嶋に灯の残る	霧	天文
1482	明治30年	秋の部	龍蟄す窟を霧の渦きぬ	霧	天文
1483	明治30年	秋の部	とある村に帰り後れし燕とぶ	秋燕	動物
1484	明治30年	秋の部	初汐の房州遠み船かぶり	初汐	地理
1485	明治30年	秋の部	日もすがらつく / \ ほうしつくほうし	つくつく法師	動物
1486	明治30年	秋の部	都より残る暑さの便りかな	残暑	時候
1488	明治30年	秋の部	狡兎死して汝は萩を枕かな	萩	植物
1489	明治30年	秋の部	鶏の子の野分に少し飛ばされし	野分	天文
1490	明治30年	秋の部	白い萩と細い芒の株とあり	雑	雑
1491	明治30年	秋の部	風雲や唐もろこしの丈高く	唐黍	植物
1492	明治30年	秋の部	瘡をやみ居れば頻りに稲妻す	稲妻	天文
1493	明治30年	秋の部	瘡落ちて縁より月をさし入れぬ	月	天文
1494	明治30年	秋の部	今朝はしも秋海棠に歌よみし	秋海棠	植物
1495	明治30年	秋の部	晴れし夜を西の方屢々稲妻す	稲妻	天文
1496	明治30年	秋の部	野の中に角力場立てし小村哉	角力	人事
1497	明治30年	秋の部	裏町を角力の太鼓通りける	角力	人事
1498	明治30年	秋の部	夕暮を角力大勢町に入る	角力	人事
1499	明治30年	秋の部	虫どもの小萩が下に戀すかな	萩	植物
1500	明治30年	秋の部	女郎花折るべくとして物思ふ	女郎花	植物
1501	明治30年	秋の部	芒わけて小高き処に出でたり	芒	植物
1502	明治30年	秋の部	稲妻の馬上八幡を遙拜す	稲妻	天文
1503	明治30年	秋の部	小提灯に野分しば / \ 吹きつける	野分	天文
1504	明治30年	秋の部	海岸や野分の雲を吹飛ばす	野分	天文
1505	明治30年	秋の部	秋風の小夜にさら / \ と音すなり	秋の風	天文
1506	明治30年	秋の部	風にひびく玉川の里の砧かな	砧	人事
1507	明治30年	秋の部	砧やみて玉川に浴ふ村月夜	砧	人事
1508	明治30年	秋の部	とある村の砧ひとしく打出しぬ	砧	人事
1509	明治30年	秋の部	夜道して砧の里を打過ぎぬ	砧	人事
1510	明治30年	秋の部	沙魚釣の沙魚釣上る頻りなり	鯊釣	人事
1511	明治30年	秋の部	妻の留守に鱸を得たる詩人かな	鱸	動物
1512	明治30年	秋の部	あるが中に巨口細鱗なる鱸	鱸	動物
1513	明治30年	秋の部	無住寺や後ろは蓼の花盛り	蓼の花	植物
1514	明治30年	秋の部	綿摘や夕日の畑を散らばりつ	綿取	人事
1515	明治30年	秋の部	暮を急ぎ野菊のさかり捨てがたき	野菊	植物
1516	明治30年	秋の部	月夜な / \ 背戸の畑の蕎麦の花	蕎麦花	植物
1517	明治30年	秋の部	淋しうて出れば案山子が立てゐる	案山子	人事
1518	明治30年	秋の部	五六人根岸に會す野分の日	野分	天文
1520	明治30年	秋の部	萩芒うなづき合ふて別れかな	雑	雑
1521	明治30年	秋の部	君が立つ午の刻より野分かな	野分	天文
1522	明治30年	秋の部	秋風を吾子下るなり最上川	秋の風	天文
1523	明治30年	秋の部	薄暗くふくべ三ツ四ツさがりける	瓢	植物
1524	明治30年	秋の部	虫が鳴く神泉苑の月夜かな	月	天文
1525	明治30年	秋の部	垣つゞき根岸の里の木槿かな	木槿	植物
1526	明治30年	秋の部	殊更に木槿の一木栽ゑてあり	木槿	植物
1527	明治30年	秋の部	葛の葉の端山に起る野分かな	野分	天文
1528	明治30年	秋の部	門に出でつしばしゑむ村花火	花火	人事
1529	明治30年	秋の部	二階より花火眺めやる旅人かな	花火	人事
1530	明治30年	秋の部	中島に花火あげたる岸暗み	花火	人事

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1531	明治30年	秋の部	池の中に小舟物して花火かな	花火	人事
1532	明治30年	秋の部	人の子や我子に椎の實を手向け	椎の實	植物
1533	明治30年	秋の部	鶏の尾の野分に逆立事しばし	野分	天文
1534	明治30年	秋の部	犬吹かれ鶏鳴き出す秋の風	秋の風	天文
1535	明治30年	秋の部	葛の葉の日午にして風白き	葛	植物
1536	明治30年	秋の部	會散じひとり詩作る夜の長き	夜長	時候
1537	明治30年	秋の部	新酒賣る家の女の見も馴れず	新酒	人事
1538	明治30年	秋の部	野の店に新酒の杉葉青きかな	新酒	人事
1539	明治30年	秋の部	新酒の鬼殺しと名づくかんばしき	新酒	人事
1540	明治30年	秋の部	野の店に残る暑さの蠅群れつ	残暑	時候
1541	明治30年	秋の部	蟬どもの残る暑さを啼き出しぬ	残暑	時候
1542	明治30年	秋の部	草原や残る暑さの蛇を見る	残暑	時候
1543	明治30年	秋の部	溜水の涸れなんとする残暑かな	残暑	時候
1544	明治30年	秋の部	物狂はしうあるは芒の中に立つ	芒	植物
1545	明治30年	秋の部	岩多く短き芒ばかりかな	芒	植物
1546	明治30年	秋の部	芒喰ひ尽して牧場に馬もなし	芒	植物
1547	明治30年	秋の部	短くてから芒と申す鉢にあり	芒	植物
1548	明治30年	秋の部	川中の岩に夕日す花すゝき	芒	植物
1549	明治30年	秋の部	路傍に芒刈るなり姉妹	萱刈	人事
1550	明治30年	秋の部	野社の右も左も芒かな	芒	植物
1551	明治30年	秋の部	方三尺芒が岡の祠かな	芒	植物
1552	明治30年	秋の部	萩に泣き芒に怨じ日たゝ戀	雑	雑
1553	明治30年	秋の部	洪水を一家避難す栗畑	栗	植物
1554	明治30年	秋の部	洪水を月円なるがあらはれぬ	月	天文
1555	明治30年	秋の部	避病院に秋のてふ / \ 青きとぶ	秋の蝶	動物
1556	明治30年	秋の部	異より野分起り乾に去る	野分	天文
1557	明治30年	秋の部	名月や何やら欲しき我が思	名月	天文
1558	明治30年	秋の部	芋の葉に灯火うつる戸口かな	芋	植物
1559	明治30年	秋の部	秋風の帝闕さかんなるを見る	秋の風	天文
1560	明治30年	秋の部	南殿や制に應じて月を賦す	月	天文
1561	明治30年	秋の部	油も買はずしばらく月と相對す	月	天文
1562	明治30年	秋の部	妹黄菊姉白菊をかざしかな	菊	植物
1563	明治30年	秋の部	一輪の白菊咲きぬ貞女塚	菊	植物
1564	明治30年	秋の部	蛤を屑しとせざる雀かな	雀蛤となる	動物
1565	明治30年	秋の部	或夜案山子夢に入って怨ずらく	案山子	人事
1566	明治30年	秋の部	田の案山子畑の案山子を呼ばんとす	案山子	人事
1567	明治30年	秋の部	風さはがしく案山子割據す山畑	案山子	人事
1568	明治30年	秋の部	狂かあらぬか案山子を脇はさんで奔る	案山子	人事
1569	明治30年	秋の部	志蛤にあるらしき雀かな	雀蛤となる	動物
1570	明治30年	秋の部	白菊の一枝を與へ去らしめつ	菊	植物
1571	明治30年	秋の部	謁見やたま / \ 菊の間に置酒す	菊	植物
1572	明治30年	秋の部	山路深く菊の扉を見得たり	菊	植物
1573	明治30年	秋の部	道に立て異人指す案山子かな	案山子	人事
1574	明治30年	秋の部	蛤を思ひとまりし雀かな	雀蛤となる	動物
1575	明治30年	秋の部	三ツ栗を一ツ / \ の別かな	栗	植物
1576	明治30年	秋の部	栗のいが仰向いて笑ふ梢かな	栗	植物
1577	明治30年	秋の部	二ツ栗や一つを送るいがの中	栗	植物
1578	明治30年	秋の部	錦心繡腸にして柘榴子と号す	柘榴	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
1579	明治30年	秋の部	落水の一處に落合ふ濁りかな	落水水	地理
1580	明治30年	秋の部	三ツ栗の只一ツ残る思ひかな	栗	植物
1581	明治30年	秋の部	古の箕子の國行けば鷓鴣の啼く	鷓鴣	動物
1582	明治30年	秋の部	車遠く撰みに洩れし虫の鳴く	蟲	動物
1583	明治30年	秋の部	夕風やさいかちの實を吹き鳴らす	皂角	植物
1584	明治30年	秋の部	佛刻み菊に親む一間かな	菊	植物
1585	明治30年	秋の部	雨の如く露おつるなり森の中	露	天文
1586	明治30年	秋の部	露乾かず野に雲低れて草長く	露	天文
1587	明治30年	秋の部	大礮の露にぬれたる横はる	露	天文
1588	明治30年	秋の部	虫の音の露とやなりし夜明方	露	天文
1589	明治30年	秋の部	庭前に露氣紛々と下るなり	露	天文
1590	明治30年	秋の部	鶏の子の晨に出でゝ露をふむ	露	天文
1591	明治30年	秋の部	前栽や紫の露あけの露	露	天文
1592	明治30年	秋の部	朝露の乾くべくもあらぬ社頭哉	露	天文
1593	明治30年	秋の部	大旗の露打拂ふ嵐かな	露	天文
1594	明治30年	秋の部	鉢植に露置きたるを取入れつ	露	天文
1595	明治30年	秋の部	砂原の露にぬれしを裸足かな	露	天文
1596	明治30年	秋の部	落鮎の築にも入らぬ行くへかな	鯖鮎	動物
1598	明治30年	秋の部	美しき菊の御苑の朝日かな	菊	植物
1599	明治30年	秋の部	かしこしや袞龍の御袖菊の花	菊	植物
1600	明治30年	秋の部	菊の間に萬國の諸侯賀をまをす	菊	植物
1601	明治30年	秋の部	君が代は東籬の菊の雨露多し	菊	植物
1602	明治30年	秋の部	卓上や菊の杯菊の酒	菊	植物
1603	明治30年	秋の部	頌に曰く聖代只今菊の花	菊	植物
1604	明治30年	秋の部	夙に起きて菊を東籬の露に採る	菊	植物
1605	明治30年	秋の部	菊挿すべく古瓶を得つ埃多き	菊	植物
1606	明治30年	秋の部	白き瘦せぬ小鍛冶が庭の菊の花	菊	植物
1607	明治30年	秋の部	東海に旭出でつ城の紅葉かな	紅葉	植物
1608	明治30年	秋の部	木の實黄に草の實紅く野に旭出づ	雑	雑
1609	明治30年	秋の部	君が代の菊の花びら大いなり	菊	植物
1610	明治30年	秋の部	菊の御門をさす朝賀の馬車	菊	植物
1611	明治30年	秋の部	行秋を天に怪しき雲起る	行秋	時候
1612	明治30年	秋の部	江樓やいつくともなく秋のゆく	行秋	時候
1613	明治30年	秋の部	長き夜をあやしき禽の声すなり	夜長	時候
1615	明治30年	秋の部	松茸の老いて山を出づる物うかり	松茸	植物
1616	明治30年	秋の部	木幣や秋風動く熊祭	秋の風	天文
1617	明治30年	秋の部	色かへぬ松をと母の宣ひぬ	色変えぬ松	植物
1618	明治30年	秋の部	こぼれ沈む南天の實や手水鉢	南天の実	植物
1619	明治30年	秋の部	旅籠屋に冬を待つまもあらぬ哉	冬を待つ	時候
1620	明治30年	秋の部	さび鮎を賣残しけり家中町	鯖鮎	動物
1621	明治30年	秋の部	啄木鳥のつゝきもあへず飛去りぬ	啄木鳥	動物
1623	明治30年	秋の部	病あるかすこし後れし鴛鴦の妻	鴛鴦	動物
1624	明治30年	秋の部	瘡落ちて飽まで喰ふ河豚かな	河豚	動物
1625	明治30年	秋の部	炭ついで再び煮出す薬かな	炭	人事
2337	明治31年	秋の部	高樓に人のけはひや星今宵	星月夜	天文
2338	明治31年	秋の部	七夕や夜更けて騒ぐ竹の風	七夕	人事
2339	明治31年	秋の部	欄干に星の契りを見る夜哉	星合い	人事
2340	明治31年	秋の部	傾城の星数へけり星今宵	星月夜	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2341	明治31年	秋の部	文月やをり / \ 通る女づれ	文月	時候
2342	明治31年	秋の部	秋立つやお城の松の朝あらし	立秋	時候
2343	明治31年	秋の部	山の井の水湧きあふれ初あらし	初嵐	天文
2344	明治31年	秋の部	初秋の枕に近し水の音	初秋	時候
2345	明治31年	秋の部	秋暑し出水のあとの泥まみれ	残暑	時候
2346	明治31年	秋の部	稲妻の水をはしるやつゞけさま	稲妻	天文
2347	明治31年	秋の部	初月を草葉の風が吹て行く	初月	天文
2348	明治31年	秋の部	よき頃にはっと開きし花火哉	花火	人事
2349	明治31年	秋の部	磯十里松風の音天の川	天の川	天文
2350	明治31年	秋の部	よき人の硯洗へる汀かな	硯洗	人事
2351	明治31年	秋の部	人の娘踊の場より盗まれぬ	踊	人事
2352	明治31年	秋の部	灯籠や輿を出てゆく仲の町	燈籠	人事
2353	明治31年	秋の部	骸骨を画く揚屋の灯籠か那	燈籠	人事
2355	明治31年	秋の部	雨の中を曾良と翁と萩芒	雑	雑
2356	明治31年	秋の部	萩芒奥の細道雨がふる	雑	雑
2357	明治31年	秋の部	大粒の雨が落来るきみ畑	唐黍	植物
2358	明治31年	秋の部	芭蕉葉のはら / \ 雨に目さめたり	芭蕉	植物
2359	明治31年	秋の部	はたごやに秋の雨きく七部集	秋の雨	天文
2360	明治31年	秋の部	庭前の雨夜もすがら虫も鳴かず	蟲	動物
2361	明治31年	秋の部	兩岸の秋雨秋風最上川	雑	雑
2362	明治31年	秋の部	雨ふらんとして踊の太鼓打ちやまず	踊	人事
2363	明治31年	秋の部	酣にして雨がふる踊か那	踊	人事
2364	明治31年	秋の部	秋の蚊の雨の夕暮鳴いて来る	秋の蚊	動物
2365	明治31年	秋の部	縁先に梨の皮剥く月夜か那	月	天文
2366	明治31年	秋の部	この道は萩の里へと通ふなり	萩	植物
2367	明治31年	秋の部	故里に母と飯喰ふ角力か那	角力	人事
2368	明治31年	秋の部	草花の露に爪先ぬらしけり	露	天文
2369	明治31年	秋の部	霧さめや顔白き人の宮詣で	霧	天文
2370	明治31年	秋の部	引越して虫聞出しぬ縁の下	蟲	動物
2371	明治31年	秋の部	鍬の土こぼれし月の戸口哉	月	天文
2372	明治31年	秋の部	國元の角力召されぬお庭先	角力	人事
2374	明治31年	秋の部	駕を出て萩に泣き伏す山路哉	萩	植物
2375	明治31年	秋の部	しのび駕萩の裏門三日の月	萩	植物
2376	明治31年	秋の部	灯籠や駕を出て行く仲の町	燈籠	人事
2377	明治31年	秋の部	木犀や駕召し給ふお庭先	木犀	植物
2378	明治31年	秋の部	霧さめや駕出給ふ宮詣で	霧	天文
2379	明治31年	秋の部	よき駕や芙蓉咲いたる庭の前	芙蓉	植物
2380	明治31年	秋の部	草いろ / \ 花たばつくる駕の内	草花	植物
2381	明治31年	秋の部	代官の駕送り出す稲の花	稲の花	植物
2382	明治31年	秋の部	たそがれや医者 of 駕ゆく木槿垣	木槿	植物
2383	明治31年	秋の部	空駕や渡し吹かるゝ秋の暮	秋の暮	時候
2384	明治31年	秋の部	駕で越す峠八里や花芒	芒	植物
2385	明治31年	秋の部	取巻の女房の駕や花野ゆく	花野	地理
2387	明治31年	秋の部	名月に木蘭の舩浮べたり	名月	天文
2388	明治31年	秋の部	舩の人に花すすき振る夕日か那	芒	植物
2389	明治31年	秋の部	漣や月の笹舟くつがへる	月	天文
2390	明治31年	秋の部	人を送る管絃の舩や秋の虹	秋の虹	天文
2391	明治31年	秋の部	網打ちし舩や月下の水烟	網打	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2392	明治31年	秋の部	船をつなぎ岸に上りつ秋の風	秋の風	天文
2393	明治31年	秋の部	夜な / \ の戀の船路や芦の花	蘆の花	植物
2394	明治31年	秋の部	逢戀や舟漕入るゝ芦の花	蘆の花	植物
2395	明治31年	秋の部	帰るべく船に先立つ燕哉	秋燕	動物
2396	明治31年	秋の部	舷に露吹き散らす芒か那	芒	植物
2398	明治31年	秋の部	絵巻物あるは花野を牛車	花野	地理
2399	明治31年	秋の部	がたひしと夜さむの車路次に入る	夜寒	時候
2400	明治31年	秋の部	俗にして車を賃す菌狩	茸狩	人事
2401	明治31年	秋の部	案内や車を下りて草の花	草花	植物
2402	明治31年	秋の部	りん / \ と車はしるや橋月夜	月	天文
2403	明治31年	秋の部	名月の門に乗入るよき車	名月	天文
2404	明治31年	秋の部	いさゝかの萩など咲いて車寄	萩	植物
2405	明治31年	秋の部	鴟鳴くや車を下りて異人ゆく	鴟	動物
2406	明治31年	秋の部	朝寒の車下りたり宮の前	朝寒	時候
2407	明治31年	秋の部	待合の柳散るなりほろ車	柳散る	植物
2408	明治31年	秋の部	荷車の馬に喰はせる芒か那	芒	植物
2409	明治31年	秋の部	顔に散る棹の雫や船の月	月	天文
2411	明治31年	秋の部	我を追ふ朝兎の蔓から / \ に	朝顔	植物
2412	明治31年	秋の部	俳諧や寺の紅葉の焼豆腐	紅葉	植物
2414	明治31年	秋の部	窓あけて雁を見送る女か那	雁	動物
2415	明治31年	秋の部	いわしひく村の惣出や濱日和	鰯引	人事
2416	明治31年	秋の部	木の実など取りつゝゆかば日がくれむ	木の實	植物
2417	明治31年	秋の部	真先に宮の大木紅葉せり	紅葉	植物
2418	明治31年	秋の部	刈残す芒の株や寺の畑	芒	植物
2419	明治31年	秋の部	行秋をこよひも人に別れけ里	行秋	時候
2420	明治31年	秋の部	材木や米代川の秋の風	秋の風	天文
2421	明治31年	秋の部	夕暮を戀の細道草紅葉	草錦	植物
2423	明治31年	秋の部	菊さけて翁夫婦や渡りそめ	菊	植物
2424	明治31年	秋の部	芋の子を洗上げたる小川哉	芋	植物
2426	明治31年	秋の部	寺に住む詩人訪ひよる鳶の門	鳶	植物
2427	明治31年	秋の部	秋の蝶黄なるが多し寺の松	秋の蝶	動物
2428	明治31年	秋の部	方丈や朝日にうとき白芙蓉	芙蓉	植物
2429	明治31年	秋の部	末枯のせざる水田の蓮もあ里	末枯	植物
2430	明治31年	秋の部	蔓ひけば青きが出でぬ烏瓜	烏瓜	植物
2431	明治31年	秋の部	山門に車下りたり鴟の声	鴟	動物
2432	明治31年	秋の部	出水に蓼丈高く花咲きぬ	雑	雑
2433	明治31年	秋の部	路傍や写生してゐる秋日和	秋日和	天文
2434	明治31年	秋の部	石大にして石露の苔の開かざる	雑	雑
2435	明治31年	秋の部	草花の中に黄なるが拔出でし	草花	植物
2437	明治31年	秋の部	木犀やお経を写す朝机	木犀	植物
2438	明治31年	秋の部	山駕のお肌寒くぞ覚ほすらん	肌寒	時候
2439	明治31年	秋の部	湖近く竹の嵐や星月夜	星月夜	天文
2440	明治31年	秋の部	秋雨や浮世を語る小商人	秋の雨	天文
2441	明治31年	秋の部	わが庭の月や朧する隣りあり	朧摺	人事
2442	明治31年	秋の部	鳴きさうな鹿見て通る夕か那	鹿	動物
2443	明治31年	秋の部	綿取のふくやかに肥えし女か那	綿取	人事
2445	明治31年	秋の部	蓑虫の泣明したる甲斐もなし	蓑虫	動物
2447	明治31年	秋の部	杯に菊の雫のたまりける	菊	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
2448	明治31年	秋の部	床の間に菊の雫のこぼれける	菊	植物
2449	明治31年	秋の部	菊刈て瘦せたる菊の残りけり	残菊	植物
2450	明治31年	秋の部	とざしたる月の戸口や菊白し	菊	植物
2451	明治31年	秋の部	山路来て菊作る家を見つれたり	菊	植物
2452	明治31年	秋の部	残る菊瘦せて白きをいとほしみ	残菊	植物
2453	明治31年	秋の部	菊折れて人の心をいたましむ	菊	植物
2454	明治31年	秋の部	菊の間に酒もりしたる公卿哉	菊	植物
2455	明治31年	秋の部	團子喰ふ茶屋の人数や菊人形	菊人形	人事
2456	明治31年	秋の部	菊咲いて妻を娶りし詩人か那	菊	植物
2457	明治31年	秋の部	わが庭の白菊を愛す黄菊がち	菊	植物
2458	明治31年	秋の部	菊そへてまみらす菊の酒となん	菊の酒	人事
2459	明治31年	秋の部	圓き月尾花が末にあらはれぬ	芒	植物
2460	明治31年	秋の部	調練の旗ひらめかす花野哉	花野	地理
2461	明治31年	秋の部	白菊に香の烟や雨ほそし	菊	植物
3185	明治32年	秋の部	飯濟むや踊あるべき村旅籠	踊	人事
3186	明治32年	秋の部	初秋の草に風吹く寐覚哉	初秋	時候
3187	明治32年	秋の部	迎火のしめりがちなる哀れか那	迎火	人事
3188	明治32年	秋の部	七夕の歌を乞はれし旅籠かな	七夕	人事
3189	明治32年	秋の部	蝸や木の間に見ゆる赤き雲	蝸	動物
3190	明治32年	秋の部	七夕の紅きともしや京の町	七夕	人事
3191	明治32年	秋の部	雷の陣たのもしき弦かな	雷	天文
3192	明治32年	秋の部	蘭を愛す入唐の僧や山の雲	蘭	植物
3193	明治32年	秋の部	朝兒の蒼を見るや星明り	朝顔	植物
3194	明治32年	秋の部	蜻蛉の生れ出でたる草葉かな	蜻蛉	動物
3196	明治32年	秋の部	七夕を君にたよりす思ひやり	七夕	人事
3198	明治32年	秋の部	母乗せて彼岸詣や馬に萩	萩	植物
3199	明治32年	秋の部	打かつぐ太鼓うれしき踊かな	踊	人事
3200	明治32年	秋の部	裸子の泥に菱とる秋暑し	残暑	時候
3201	明治32年	秋の部	太鼓買ふて町を出るや稲の花	稲の花	植物
3202	明治32年	秋の部	海山や二百十日の空の色	二百十日	時候
3203	明治32年	秋の部	虫選びともし消えたる草の風	蟲	動物
3204	明治32年	秋の部	葉鶏頭南瓜畑は荒れにけり	雁來紅	植物
3205	明治32年	秋の部	碧梧は伐仆されつ庭の月	月	天文
3206	明治32年	秋の部	横雲や萩に夜明くる高台寺	萩	植物
3207	明治32年	秋の部	俳諧は蓮の実飛ぶが如きかな	蓮實飛ぶ	植物
3209	明治32年	秋の部	水にちる花火の色や目さましき	花火	人事
3210	明治32年	秋の部	くれなゐの或はみどりの花火哉	花火	人事
3211	明治32年	秋の部	よく揚る花火は天の川近し	花火	人事
3212	明治32年	秋の部	中流に舟を泛べて花火哉	花火	人事
3213	明治32年	秋の部	金龍の水をはしれる花火哉	花火	人事
3214	明治32年	秋の部	芦の洲に舟漕ぎよせし花火哉	花火	人事
3215	明治32年	秋の部	花火消えて稲妻光る目先哉	花火	人事
3216	明治32年	秋の部	兩國の橋は落ちたる花火哉	花火	人事
3217	明治32年	秋の部	月代や花火消えたる岡の上	花火	人事
3218	明治32年	秋の部	揚花火岸の柳に消えにけり	花火	人事
3219	明治32年	秋の部	大粒な雨降りいでし花火かな	花火	人事
3221	明治32年	秋の部	萩わけて橋の名を見る庭荒れし	萩	植物
3222	明治32年	秋の部	石に萩夜露こぼるゝばかりなり	萩	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3223	明治32年	秋の部	藤棚の荒れし軒端や萩の丈	萩	植物
3224	明治32年	秋の部	萩の人に茶盆を運ぶまはり道	萩	植物
3225	明治32年	秋の部	萩咲くや木の間に見ゆる人の影	萩	植物
3226	明治32年	秋の部	萩の園犬ころ多き芝生かな	萩	植物
3227	明治32年	秋の部	松の木を繞りて萩の逦かな	萩	植物
3228	明治32年	秋の部	寺俗に萩乱れ咲く人出かな	萩	植物
3229	明治32年	秋の部	商人の女房なりけり萩の花	萩	植物
3230	明治32年	秋の部	異草もまじりて萩の蒼かな	萩	植物
3232	明治32年	秋の部	寐そべってひやづく壁を踏みにけり	冷か	時候
3233	明治32年	秋の部	冷や物打着せし腹の上	冷か	時候
3234	明治32年	秋の部	ひや/ \と浪打寄する木の根哉	冷か	時候
3235	明治32年	秋の部	つきにゆきし鐘冷かに大なり	冷か	時候
3236	明治32年	秋の部	幢幔やひや/ \として風が吹く	冷か	時候
3237	明治32年	秋の部	冷かに楸散るなり門の内	冷か	時候
3238	明治32年	秋の部	冷かな風に吹かれてかしま立	冷か	時候
3239	明治32年	秋の部	雨一夜ひやづく空となりにけり	冷か	時候
3240	明治32年	秋の部	冷かや草を拂へば石に露	冷か	時候
3241	明治32年	秋の部	夙に起きて刻む佛や冷やかに	冷か	時候
3243	明治32年	秋の部	鶏の子は籠に戻りつ秋の雨	秋の雨	天文
3244	明治32年	秋の部	篝火を草に打振り牛祭	牛祭	人事
3245	明治32年	秋の部	松枯れて葡萄の月を賞しけり	葡萄	植物
3246	明治32年	秋の部	装ひや萩に連立つ三四人	萩	植物
3247	明治32年	秋の部	柳散り戸口に古き轍かな	柳散る	植物
3248	明治32年	秋の部	柿の葉と柿と盛りたる器かな	柿	植物
3249	明治32年	秋の部	椋鳥の木の実をこぼす坂の上	椋鳥	動物
3250	明治32年	秋の部	穂芒の馬の腹うつ野分かな	野分	天文
3251	明治32年	秋の部	老樂の鳴子も引いて見たりけり	鳴子	人事
3252	明治32年	秋の部	長き夜の雨ふり已まぬ旅籠哉	夜長	時候
3253	明治32年	秋の部	雨垂れのいさごを洗ひ鳳仙花	鳳仙花	植物
3254	明治32年	秋の部	未なりの鬼灯残る青みがち	鬼灯	植物
3256	明治32年	秋の部	奏聞の孝子もありて年豊か	豊年	人事
3257	明治32年	秋の部	豊年の村に入りけり奉幣使	豊年	人事
3258	明治32年	秋の部	豊年は津々浦々の踊かな	豊年	人事
3259	明治32年	秋の部	豊年の舞樂起るや行在所	豊年	人事
3260	明治32年	秋の部	實る秋千石舩に帆をあげて	秋	時候
3261	明治32年	秋の部	豊かなる瑞穂の國や秋日和	秋日和	天文
3262	明治32年	秋の部	入船の港賑はふ米の秋	秋	時候
3263	明治32年	秋の部	國々の五穀みのると奏しけり	豊年	人事
3264	明治32年	秋の部	瑞兆の雲も現れ実る秋	豊年	人事
3265	明治32年	秋の部	豊年の夫も帰りて嬉しけれ	豊年	人事
3267	明治32年	秋の部	洪水や黍に風吹く朝月夜	唐黍	植物
3268	明治32年	秋の部	江月や鶴飛去りし舟の上	月	天文
3269	明治32年	秋の部	小銭もちて酒買ひに行く村の月	月	天文
3270	明治32年	秋の部	明月の水は東に流れけり	名月	天文
3271	明治32年	秋の部	冷かな月夜なりけり雨上り	月	天文
3272	明治32年	秋の部	明月の庭には木々の雫かな	名月	天文
3273	明治32年	秋の部	明月の風颯々と吹いて来る	名月	天文
3274	明治32年	秋の部	明月の葉廣柏や暗き窓	名月	天文

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3275	明治32年	秋の部	草庵の灯も見えて嵯峨の月	月	天文
3276	明治32年	秋の部	いくさやんで月に暈見る野末哉	月	天文
3278	明治32年	秋の部	打やまぬ踊太鼓や雨になり	踊	人事
3279	明治32年	秋の部	笛吹の美男なりける踊かな	踊	人事
3280	明治32年	秋の部	踊ありとふれまはりけり稲の花	踊	人事
3281	明治32年	秋の部	宿を出て踊見にゆく他国かな	踊	人事
3282	明治32年	秋の部	京の人をとめて踊を習ひけり	踊	人事
3283	明治32年	秋の部	時の疫の踊もなくて村さびし	踊	人事
3284	明治32年	秋の部	篝火の草木にうつり踊かな	踊	人事
3285	明治32年	秋の部	道心のさそひ出されし踊かな	踊	人事
3286	明治32年	秋の部	下加茂の踊召されし御庭哉	踊	人事
3287	明治32年	秋の部	月に雲踊も散ってしまひけり	踊	人事
3288	明治32年	秋の部	古の神泉苑や秋の水	秋の水	地理
3289	明治32年	秋の部	花芒小石がちなる山路哉	芒	植物
3290	明治32年	秋の部	草花に水流れ入る小橋哉	草花	植物
3291	明治32年	秋の部	山越の暮に悲しき案山子哉	案山子	人事
3292	明治32年	秋の部	つはくらも帰りて門の穂蓼哉	蓼の花	植物
3293	明治32年	秋の部	末枯の茄子畑や水が退く	末枯	植物
3294	明治32年	秋の部	いが栗の青きが落ちぬ谷の水	栗	植物
3295	明治32年	秋の部	後の月は菊に灯す夜なりけり	後の月	天文
3296	明治32年	秋の部	此頃の夜寒の空や星が見え	夜寒	時候
3297	明治32年	秋の部	小謡の夕山越や薬掘	薬掘	人事
3299	明治32年	秋の部	豆引いて鶏頭残る畑かな	豆引	人事
3300	明治32年	秋の部	豆引いてかけし軒端に照る日哉	豆引	人事
3301	明治32年	秋の部	畑の豆畦豆も引いてしまひけり	豆引	人事
3302	明治32年	秋の部	引残す豆に鶏遊びけり	豆引	人事
3303	明治32年	秋の部	荒畑や草の中より豆を引く	豆引	人事
3304	明治32年	秋の部	豆引や小豆畑はまだ青し	豆引	人事
3305	明治32年	秋の部	雨晴れて豆引かばやと思ひけり	豆引	人事
3306	明治32年	秋の部	草荒れて豆引くべくもあらぬかな	豆引	人事
3307	明治32年	秋の部	畔豆を引くや門口に鶏を追ふ	豆引	人事
3308	明治32年	秋の部	豆引いて荷ひ来りし労れかな	豆引	人事
3310	明治32年	秋の部	山路来て男に逢ひぬ木賊刈	木賊刈	人事
3311	明治32年	秋の部	木賊刈る雨もさびしやハツ下り	木賊刈	人事
3312	明治32年	秋の部	木賊刈る男は村の鰥夫かな	木賊刈	人事
3313	明治32年	秋の部	木賊刈寺に寄りけり石に鎌	木賊刈	人事
3314	明治32年	秋の部	三日月や風さら／＼と木賊刈	木賊刈	人事
3315	明治32年	秋の部	木賊刈る男に道を問ひにけり	木賊刈	人事
3316	明治32年	秋の部	木賊刈木賊の中の昼餉哉	木賊刈	人事
3317	明治32年	秋の部	小盗人出づる山路や木賊刈	木賊刈	人事
3318	明治32年	秋の部	道の辺に木賊刈干す小石哉	木賊刈	人事
3319	明治32年	秋の部	領内を忍びの狩や木賊刈	木賊刈	人事
3321	明治32年	秋の部	起き出でゝ葉姜を掘るひじり哉	生姜	植物
3322	明治32年	秋の部	葉姜を荷ひ来りぬ市の雨	生姜	植物
3323	明治32年	秋の部	朝の雨姜の若葉ぬるゝ程	生姜	植物
3324	明治32年	秋の部	葉姜やしめりがちなる畑の土	生姜	植物
3325	明治32年	秋の部	葉姜の葉ながらにして卓の上	生姜	植物
3326	明治32年	秋の部	葉姜の草にまじりて伸びにけり	生姜	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3327	明治32年	秋の部	葉姜を洗へば白き根なりけり	生姜	植物
3328	明治32年	秋の部	霧雨や葉姜を掘る山の畑	生姜	植物
3329	明治32年	秋の部	よき酒に葉姜ひたし贈りけり	生姜	植物
3330	明治32年	秋の部	葉姜の掘残されて更くる秋	秋深し	時候
3331	明治32年	秋の部	葉姜の葉は緑なる梅酢哉	生姜	植物
3332	明治32年	秋の部	葉姜を朝に嗜む老儒哉	生姜	植物
3334	明治32年	秋の部	叔母の子をさそふ鬼灯畑哉	鬼灯	植物
3335	明治32年	秋の部	男の子にも鬼灯分つ大人ぶり	鬼灯	植物
3336	明治32年	秋の部	鬼灯も賣れぬ小店や日短かし	鬼灯	植物
3337	明治32年	秋の部	鬼灯も鶏頭も皆泥まみれ	雑	雑
3338	明治32年	秋の部	鬼灯の青きもまじり多くなる	鬼灯	植物
3339	明治32年	秋の部	鬼灯を貰ひに来るや隣の子	鬼灯	植物
3340	明治32年	秋の部	鬼灯も枯れ勝にして蒜の畑	鬼灯	植物
3341	明治32年	秋の部	鬼灯に蝶も見えけり日をうけて	鬼灯	植物
3342	明治32年	秋の部	草わけて鬼灯さがす屋敷跡	鬼灯	植物
3343	明治32年	秋の部	鬼灯を賣りに來りぬ例の媼	鬼灯	植物
3344	明治32年	秋の部	飴賣の鬼灯も賣る物日哉	鬼灯	植物
3345	明治32年	秋の部	鬼灯は刈尽されぬ昼の虫	鬼灯	植物
3346	明治32年	秋の部	鬼灯の殻引裂いて憂かな	鬼灯	植物
3347	明治32年	秋の部	鬼灯の切捨てられてしなびけり	鬼灯	植物
3349	明治32年	秋の部	見知らざる翁もまじり菌狩	茸狩	人事
3350	明治32年	秋の部	茸狩の茸を煮るべき用意哉	茸狩	人事
3351	明治32年	秋の部	茸狩に仙を羨む心あり	茸狩	人事
3352	明治32年	秋の部	茸狩や鶏鳴く村を見下ろして	茸狩	人事
3353	明治32年	秋の部	炭焼に訪寄る昼や菌狩	茸狩	人事
3354	明治32年	秋の部	茸狩の寺に集ひし戻りかな	茸狩	人事
3355	明治32年	秋の部	炭焼の娘をなぶり菌狩	茸狩	人事
3356	明治32年	秋の部	菌狩薬も掘りて戻りけり	茸狩	人事
3357	明治32年	秋の部	茸狩や襟に落ちたる松の露	茸狩	人事
3358	明治32年	秋の部	茸狩や溪に下りし人の声	茸狩	人事
3359	明治32年	秋の部	名も知らぬ菌を取ってすてにけり	茸狩	人事
3360	明治32年	秋の部	山僧やさそひ出されて菌狩	茸狩	人事
3361	明治32年	秋の部	茸狩の連にはぐれし下山かな	茸狩	人事
3362	明治32年	秋の部	茸狩の松茸を撰る籠の中	茸狩	人事
3363	明治32年	秋の部	かり得たる菌に草をかぶせけり	茸狩	人事
3365	明治32年	秋の部	初汐や鐘つき出す磯の寺	初汐	地理
3366	明治32年	秋の部	初汐に二十日の月も出でにけり	初汐	地理
3367	明治32年	秋の部	初汐に風吹く磯の木立哉	初汐	地理
3368	明治32年	秋の部	初汐や淡路の山に昼の月	初汐	地理
3369	明治32年	秋の部	初汐の漫々として星光る	初汐	地理
3370	明治32年	秋の部	初汐や鳶の草木の日の光り	初汐	地理
3371	明治32年	秋の部	初汐や嶋から帰る朝の舟	初汐	地理
3372	明治32年	秋の部	初汐の武さしの國や朝畑	初汐	地理
3373	明治32年	秋の部	初汐や磯は雨ふる小家がち	初汐	地理
3374	明治32年	秋の部	初汐に夜明くる村や舟の窓	初汐	地理
3375	明治32年	秋の部	舟人の初汐ばかり更けにけり	初汐	地理
3376	明治32年	秋の部	初汐や高きに立てる磯の寺	初汐	地理
3378	明治32年	秋の部	嬉しくも萩につれ立つ三人かな	萩	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3380	明治32年	秋の部	露しぐれ笠傾くる風もあり	露しぐれ	天文
3381	明治32年	秋の部	もろともに萩を見にきと傳へてよ	萩	植物
3383	明治32年	秋の部	曲物に柚の葉もそへて柚味噌哉	柚味噌	人事
3384	明治32年	秋の部	方外のゆみそをわかつ笹葉哉	柚味噌	人事
3385	明治32年	秋の部	老禪に柚味噌乞ひ得て戻りけり	柚味噌	人事
3386	明治32年	秋の部	この頃のゆみそもありて小酒哉	柚味噌	人事
3387	明治32年	秋の部	柚味噌の残少き愚庵かな	柚味噌	人事
3388	明治32年	秋の部	酒のまぬ人ばかりなり新柚みそ	柚味噌	人事
3389	明治32年	秋の部	わびしくも芭蕉を泊めしゆみそ哉	柚味噌	人事
3390	明治32年	秋の部	ゆみそつくる朝の厨のうそ寒し	柚味噌	人事
3391	明治32年	秋の部	山里は豆腐に遠き柚みそ哉	柚味噌	人事
3392	明治32年	秋の部	芋の子を呉れてゆみそを貰ひけり	柚味噌	人事
3394	明治32年	秋の部	入船の新酒もありて祭かな	新酒	人事
3395	明治32年	秋の部	店先に新酒の樽や鶏頭花	新酒	人事
3396	明治32年	秋の部	村中に新酒をくばり祝儀哉	新酒	人事
3397	明治32年	秋の部	野の店の新酒の酔や草の花	新酒	人事
3398	明治32年	秋の部	新酒のむで夜道をゆくやさめ心地	新酒	人事
3399	明治32年	秋の部	賣出しの草花かざる新酒など	新酒	人事
3400	明治32年	秋の部	樽入は新酒なりけりよい嫁御	新酒	人事
3401	明治32年	秋の部	酔顔の下司もうれしき新酒哉	新酒	人事
3402	明治32年	秋の部	新酒積んで川を下るや花芒	新酒	人事
3403	明治32年	秋の部	雨がちの新酒も遅き村さびし	新酒	人事
3404	明治32年	秋の部	菊咲いて君来ましたり此夕	菊	植物
3405	明治32年	秋の部	なか/＼に花野を遠み牛車	花野	地理
3406	明治32年	秋の部	夕月の戸口にあたりひさご哉	瓢	植物
3407	明治32年	秋の部	暁の星も消えけり白桔梗	桔梗	植物
3408	明治32年	秋の部	新そばは弥亘もまじりて発句哉	新蕎麥	人事
3409	明治32年	秋の部	古の月夜に似たる砧かな	砧	人事
3410	明治32年	秋の部	満目の蓮破れぬ風曇り	破蓮	植物
3411	明治32年	秋の部	引きそめし豆の畑や雁わたる	雁	動物
3412	明治32年	秋の部	大名の白河を立つあけの雁	雁	動物
3413	明治32年	秋の部	酒買ふて舟に戻るや暮の雁	雁	動物
3414	明治32年	秋の部	積奠の襟を正しくうそ寒き	やや寒	時候
3415	明治32年	秋の部	雁金や雨ふり出でし舟の窓	雁	動物
3416	明治32年	秋の部	初雁やまだ鶏頭の瘦せながら	雁	動物
3417	明治32年	秋の部	鶏の子の落穂拾ふや畦の草	落穂	植物
3418	明治32年	秋の部	夕晴の菊鮮かや土ぬれし	菊	植物
3419	明治32年	秋の部	紅葉散る縁に雨垂しぶきけり	紅葉	植物
3420	明治32年	秋の部	柳ちり/＼日もくれんとす	柳散る	植物
3421	明治32年	秋の部	赤菊の咲き乱れたり勝手口	菊	植物
3422	明治32年	秋の部	鱒引大雨風となりにけり	鱒引	人事
3423	明治32年	秋の部	ぐみの木の葉も落尽す濱の風	茱萸	植物
3424	明治32年	秋の部	飛んで来る鳥にしぐれけり	時雨	天文
3425	明治32年	秋の部	しぐれ来て少しかゝりぬ利休窓	時雨	天文
3426	明治32年	秋の部	大雨に砂洗はれし黄菊かな	菊	植物
3427	明治32年	秋の部	料理屋を出てしぐれけりもみの裏	時雨	天文
3428	明治32年	秋の部	赤々と瀬にうつる雲や鮎のさび	錆鮎	動物
3429	明治32年	秋の部	谷川の尖りし石や鮎落る	錆鮎	動物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3430	明治32年	秋の部	さびあゆの貫かれけり草の骨	錆鮎	動物
3431	明治32年	秋の部	さびあゆの岩に便らん思哉	錆鮎	動物
3432	明治32年	秋の部	さびあゆの膳に上りぬ山はたご	錆鮎	動物
3433	明治32年	秋の部	さびあゆの身をかくすべきすべをなみ	錆鮎	動物
3434	明治32年	秋の部	しばらくは日向に寄りぬ下りあゆ	錆鮎	動物
3435	明治32年	秋の部	此頃の鮎もさびたり鱒すし	錆鮎	動物
3436	明治32年	秋の部	落鮎の身も黄みけり網の中	錆鮎	動物
3437	明治32年	秋の部	あゆも落ち尾花もちりてしまひけり	雑	雑
3438	明治32年	秋の部	秋風や岩に干からびし海の草	秋の風	天文
3439	明治32年	秋の部	自茲去ていつくに君は花芒	芒	植物
3440	明治32年	秋の部	思ひあまり暮秋の山を下りけり	暮の秋	時候
3441	明治32年	秋の部	秋も末になりける顔や君も亦	暮の秋	時候
3442	明治32年	秋の部	旅もはや茲に九月の酒中り	九月	時候
3443	明治32年	秋の部	掃はざる银杏落葉や能樂堂	银杏散る	植物
3444	明治32年	秋の部	眼中の秋に海あり吾老矣	秋	時候
3445	明治32年	秋の部	此頃の日和つゝきや茶の荅	茶の花	植物
3446	明治32年	秋の部	茶の花の垣も低しや馬に乗り	茶の花	植物
3447	明治32年	秋の部	茶の花の木幡あたりや雨さびし	茶の花	植物
3448	明治32年	秋の部	茶の花や霜早くふる山の寺	茶の花	植物
3449	明治32年	秋の部	茶の花も咲きぬ異木の帰花	茶の花	植物
3450	明治32年	秋の部	朝起の去来は柿を眺めけり	柿	植物
3452	明治32年	秋の部	茸狩や木の間に見ゆる京の町	茸狩	人事
3453	明治32年	秋の部	茸狩や草につらぬく茸の数	茸狩	人事
3455	明治32年	秋の部	鳥も来ず紅葉に早き金閣寺	紅葉	植物
3456	明治32年	秋の部	達磨の画秋風吹くが如きかな	秋の風	天文
3458	明治32年	秋の部	境内は名のある桜もみじかな	桜紅葉	植物
3460	明治32年	秋の部	渋柿はみんな鴉に喰はれうぞ	柿	植物
3462	明治32年	秋の部	染物に赤蜻蛉や京の川	赤蜻蛉	動物
3464	明治32年	秋の部	風吹くや木津の川辺の棉畑	棉	植物
3466	明治32年	秋の部	よき人の墓も荒れたり鶏頭花	鶏頭	植物
3468	明治32年	秋の部	雨の中に朝戸を開けて蕎麦の花	蕎麦花	植物
3470	明治32年	秋の部	秋雨や鶏の米賣る媪が店	秋の雨	天文
3472	明治32年	秋の部	しん / \ と霧に雨ふる神の山	霧	天文
3473	明治32年	秋の部	上流の紅葉も見えつ五十鈴川	紅葉	植物
3475	明治32年	秋の部	神樂殿の雨に人なきそぞろ寒	そぞろ寒	時候
3476	明治32年	秋の部	朝寒や宮作るべき木の匂ひ	朝寒	時候
3477	明治32年	秋の部	やゝ寒き雨や見上ぐる神の杉	やや寒	時候
3478	明治32年	秋の部	神木のひやゝかにして雫かな	冷か	時候
3479	明治32年	秋の部	秋にして雨にして神の残シの灯	秋	時候
3481	明治32年	秋の部	山風の霧吹きおろす畏さよ	霧	天文
3483	明治32年	秋の部	幾秋の千木高うして宮の雨	秋	時候
3485	明治32年	秋の部	やや久しき汽車の遅れや夜の寒き	夜寒	時候
3487	明治32年	秋の部	海岸に宿れる夜半や秋の雨	秋の雨	天文
3489	明治32年	秋の部	草花も吾もぬれけり雨三日	草花	植物
3491	明治32年	秋の部	大佛の口影を踏むや肌寒う	肌寒	時候
3492	明治32年	秋の部	大佛のうしろは山や秋の風	秋の風	天文
3494	明治32年	秋の部	月の夜は達磨の眼光りけり	月	天文
3496	明治32年	秋の部	鎌倉を見たり満地の秋の風	秋の風	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3499	明治32年	秋の部	北国の山の紅葉や雪早し	紅葉	植物
3500	明治32年	秋の部	帰省して今年の粟を炊きけり	粟	植物
3501	明治32年	秋の部	茶の花に遊ぶ小鳥も見馴れたり	茶の花	植物
3502	明治32年	秋の部	茶の花や引残されし烏瓜	茶の花	植物
3503	明治32年	秋の部	茶の花や俗も閑なる寺の會	茶の花	植物
3504	明治32年	秋の部	茶畑の荒れて久しや花咲きぬ	茶の花	植物
3505	明治32年	秋の部	草枯の畑や茶の木の蒼がち	茶の花	植物
3506	明治32年	秋の部	海中の巖を吹くや秋の風	秋の風	天文
3507	明治32年	秋の部	此頃の燕も帰り干蓑	秋燕	動物
3508	明治32年	秋の部	三四の菌を草に包みけり	茸	植物
3509	明治32年	秋の部	神嘗の祭の月となりけり	神嘗祭	人事
3510	明治32年	秋の部	渋柿や袴つけたる氏子ども	柿	植物
3511	明治32年	秋の部	まはり道の足もよごさず草紅葉	草錦	植物
3512	明治32年	秋の部	草紅葉運動会は果てにけり	草錦	植物
3513	明治32年	秋の部	秋晴の道に物干す筵哉	秋晴	天文
3514	明治32年	秋の部	月に歩す偶々九月十三夜	九月	時候
3515	明治32年	秋の部	百舌鳥鳴いて目黒に近き木立かな	鴝	動物
3516	明治32年	秋の部	十町もありと云ふ道や花芒	芒	植物
3517	明治32年	秋の部	酒ものまず夜を寒がりて寐たりけり	夜寒	時候
3518	明治32年	秋の部	冷やかに神の扉を閉るなり	冷か	時候
3519	明治32年	秋の部	岩木山の雪を見上る刈田哉	刈田	地理
3520	明治32年	秋の部	雨寒く刈田を雁の低う飛ぶ	刈田	地理
3521	明治32年	秋の部	老一人田も刈終へてしまひけり	刈田	地理
3522	明治32年	秋の部	秋もはや里は刈田の雨つゞき	刈田	地理
3523	明治32年	秋の部	刈跡の水も落さぬ櫓哉	櫓	植物
3524	明治32年	秋の部	山里や田を刈りてより小淋しき	刈田	地理
3525	明治32年	秋の部	岡の畑のそばも実となる刈田哉	刈田	地理
3526	明治32年	秋の部	豆引の刈田を眺め戻りけり	刈田	地理
3527	明治32年	秋の部	この頃の秋の霜ふる刈田哉	刈田	地理
3528	明治32年	秋の部	鶏追へば刈田に遠く遊びけり	刈田	地理
3529	明治32年	秋の部	山の田は刈られて久し散尾花	芒	植物
3530	明治32年	秋の部	少し明かき刈田の果や雲のきれ	刈田	地理
3531	明治32年	秋の部	薄明き月の戸口や葉鶏頭	雁來紅	植物
3532	明治32年	秋の部	よき酒を買にやりけり鯉漬	鯉漬	人事
3533	明治32年	秋の部	松茸の土こぼれけり台どころ	松茸	植物
3534	明治32年	秋の部	松茸に草ちらばりぬ台處	松茸	植物
3535	明治32年	秋の部	神の木の盤桓として野分かな	野分	天文
3536	明治32年	秋の部	秋の山に上りて見たり雲の色	秋の山	地理
3537	明治32年	秋の部	鶺鴒や川原に咲ける黄なる花	鶺鴒	動物
3538	明治32年	秋の部	清水の愚庵を訪ひぬ蘭の歌	蘭	植物
3539	明治32年	秋の部	入唐の僧帰りけり蘭の花	蘭	植物
3540	明治32年	秋の部	幽谷に人もすみけり蘭の花	蘭	植物
3541	明治32年	秋の部	岩を負ひて咲かざる蘭の茂りけり	蘭	植物
3542	明治32年	秋の部	菊の花且の物と思ふかな	菊	植物
3543	明治32年	秋の部	蕙と蘭と共に吹かるゝ且かな	蘭	植物
3544	明治32年	秋の部	蘭咲くや岩にこぼれし日の光	蘭	植物
3545	明治32年	秋の部	蘭の香や愚なる子の僧となり	蘭	植物
3546	明治32年	秋の部	蘭の鉢貴人の前に据ゑにけり	蘭	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3547	明治32年	秋の部	よき水も流れて蘭の多き谷	蘭	植物
3548	明治32年	秋の部	蘭の苞いやしき人の通りけり	蘭	植物
3549	明治32年	秋の部	蘭の花桂の露や星明り	蘭	植物
3550	明治32年	秋の部	蘭の花野分も知らぬ岩により	蘭	植物
3551	明治32年	秋の部	盆石と花なき蘭を愛しけり	蘭	植物
3552	明治32年	秋の部	襖あけて書院に蘭を運びけり	蘭	植物
3554	明治32年	秋の部	渋柿や流行り出したる大黒天	柿	植物
3555	明治32年	秋の部	實もならぬよしある柿の一木哉	柿	植物
3556	明治32年	秋の部	小一里を枝柿もちて帰りけり	柿	植物
3557	明治32年	秋の部	小淋しき山里路や柿落葉	柿落葉	植物
3558	明治32年	秋の部	渋柿の葉も青々と秋暑し	柿	植物
3559	明治32年	秋の部	渋柿は枝に残れり干菓	柿	植物
3560	明治32年	秋の部	渋柿の村も見えけり花芒	柿	植物
3561	明治32年	秋の部	門に入る医者的車や柿落葉	柿落葉	植物
3562	明治32年	秋の部	渋柿の扁たきを名の在所哉	柿	植物
3563	明治32年	秋の部	渋柿に到る逕も荒れにけり	柿	植物
3565	明治32年	秋の部	俳諧は酒温むるすべもなし	温め酒	人事
3566	明治32年	秋の部	雨となりし運動会や草紅葉	草錦	植物
3567	明治32年	秋の部	低き木の紅葉もまじり花芒	芒	植物
3568	明治32年	秋の部	俳諧の別は似たり柿の蒂	柿	植物
3569	明治32年	秋の部	柚の皮の味噌も残りて別哉	柚味噌	人事
3570	明治32年	秋の部	五六人高きに登る菊の花	菊	植物
3571	明治32年	秋の部	あたためて柚味噌なめけりさしむかひ	柚味噌	人事
3572	明治32年	秋の部	莽として愁ふ芒や君は去る	芒	植物
3573	明治32年	秋の部	風に臨んで暮秋の人を送りけり	暮の秋	時候
3574	明治32年	秋の部	よき人の袍衣うめし木はもみじけり	紅葉	植物
3575	明治32年	秋の部	皆曰く是より遠し秋の風	秋の風	天文
3576	明治32年	秋の部	足らざりし柚味噌に惜き別哉	柚味噌	人事
3578	明治32年	秋の部	木の間から海は見えけり露しぐれ	露しぐれ	天文
3579	明治32年	秋の部	露しぐれ袖にかこひし小提灯	露しぐれ	天文
3580	明治32年	秋の部	山駕に露しぐれきく小淋しき	露しぐれ	天文
3581	明治32年	秋の部	露しぐれ鳥も啼かざる木立哉	露しぐれ	天文
3582	明治32年	秋の部	露しぐれ人出て給ふ車寄	露しぐれ	天文
3583	明治32年	秋の部	露しぐれ森を出てたる日の光	露しぐれ	天文
3584	明治32年	秋の部	内宮の神の灯残り露しぐれ	露しぐれ	天文
3585	明治32年	秋の部	しばし憩ふ一木の松や露しぐれ	露しぐれ	天文
3586	明治32年	秋の部	露しぐれ水に散込む夜明哉	露しぐれ	天文
3587	明治32年	秋の部	露しぐれ既に乾いて草の花	露しぐれ	天文
3588	明治32年	秋の部	夕ふじや垣の茶の木も咲きそめて	茶の花	植物
3589	明治32年	秋の部	黍からを踏んで逕のやゝ寒き	唐黍	植物
3590	明治32年	秋の部	大國の刈田の上やくもり勝	刈田	地理
3591	明治32年	秋の部	山越之狭き刈田や蕎麦の花	蕎麦花	植物
3592	明治32年	秋の部	税輕し糶すり唄も昔ぶり	糶摺	人事
3593	明治32年	秋の部	此頃の雁もまれなり尾花散る	芒散る	植物
3594	明治32年	秋の部	登臨の城高うして雲の秋	秋の雲	天文
3595	明治32年	秋の部	草の実もこぼれて久し古き墓	草の実	植物
3596	明治32年	秋の部	八月の鱸をさくや舟の客	八月	時候
3597	明治32年	秋の部	笠の中に木実を取りし山路哉	木の實	植物

秋の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3598	明治32年	秋の部	紅葉見て滝の裏へもまはりけり	紅葉	植物
3599	明治32年	秋の部	朝寒の菊一ツ咲く戸口哉	雑	雑
3600	明治32年	秋の部	掃かざなりし藤棚の下や冬近し	冬近し	時候
3601	明治32年	秋の部	別るゝに物の悲しや草の花	草花	植物
3602	明治32年	秋の部	心細く北向く兒や秋の風	秋の風	天文
3603	明治32年	秋の部	秋風や道にちらばる草の骨	秋の風	天文
3604	明治32年	秋の部	岩多き國に入りけり秋の風	秋の風	天文
3605	明治32年	秋の部	秋風や桑の畑の泥乾き	秋の風	天文
3606	明治32年	秋の部	洪水や日くれて秋の風が吹く	秋の風	天文
3607	明治32年	秋の部	朝寒や眉の上なる吾妻山	朝寒	時候
3608	明治32年	秋の部	古の奥州路なり秋の風	秋の風	天文
3609	明治32年	秋の部	秋の雲藏王岳を奔りけり	秋の雲	天文
3610	明治32年	秋の部	もろともに新酒の酔や國訛	新酒	人事
3611	明治32年	秋の部	萩芒芒は穂にも出でずして	雑	雑
3612	明治32年	秋の部	十境の外に菊咲く蘭若かな	菊	植物
3613	明治32年	秋の部	芋の子をとりて芋の葉捨てにけり	芋	植物
3614	明治32年	秋の部	茸もなく松の下草花さびし	茸	植物
3615	明治32年	秋の部	衰へし蜻蛉を見る落穂哉	雑	雑
3616	明治32年	秋の部	みとり子の其子美し菊の綿	菊	植物
3617	明治32年	秋の部	穴に入る頃を野ら蛇うとましき	蛇穴に入る	動物
3618	明治32年	秋の部	いさゝかの萁を干して戸さし勝	萁干	人事
3619	明治32年	秋の部	東海に臨む旅篋や星月夜	星月夜	天文
3620	明治32年	秋の部	美しき木の葉の色や鮭の肌	鮭	動物
3621	明治32年	秋の部	末枯れし萩や芒はさびしかり	雑	雑
3622	明治32年	秋の部	よく歌ふ蚯蚓や姫の恋ならん	蚯蚓鳴く	動物
3623	明治32年	秋の部	紫の花は小さし草の秋	秋の草	植物
3624	明治32年	秋の部	末枯れし野や白日を風の吹く	末枯	植物
3625	明治32年	秋の部	巢にもよらで燕さびしき別かな	秋燕	動物
3626	明治32年	秋の部	鳥を射る蝦夷の男や秋の海	秋の海	地理
3627	明治32年	秋の部	傘をさして出てけり雨月夜	月	天文
3628	明治32年	秋の部	椎の実や神恐しき森の風	椎の實	植物
3629	明治32年	秋の部	鳴立て月は東にあらはれぬ	鳴	動物
3630	明治32年	秋の部	腸を洗はれてゐる糸瓜哉	糸瓜	植物
3631	明治32年	秋の部	女郎花折らんともせで通りけり	女郎花	植物
3632	明治32年	秋の部	山盛の栗商や後の月	後の月	天文
3633	明治32年	秋の部	長き夜の星や軒端に迫りたる	夜長	時候
3634	明治32年	秋の部	肌さむき松の鱗の雫かな	肌寒	時候
3635	明治32年	秋の部	白菊の蒼尊し天津星	菊	植物
3636	明治32年	秋の部	俳諧師秋の茄子をめでにけり	秋茄子	植物
3637	明治32年	秋の部	綿干すや路にほこりも立たぬ風	綿	植物
3638	明治32年	秋の部	鶏頭に吹溜りけり柿落葉	雑	雑
3639	明治32年	秋の部	行秋や渺茫として海の色	行秋	時候
3640	明治32年	秋の部	二ツ栗別るゝ戀もありぬべし	栗	植物
3641	明治32年	秋の部	雨の中にひとり山田の稲を刈る	稲刈	人事
3642	明治32年	秋の部	稲妻やくれて家に入るひとり者	稲妻	天文
3643	明治32年	秋の部	炭を焼く男に逢ひぬ紅葉狩	紅葉狩	人事
3644	明治32年	秋の部	白菊や夜は星辰二十八	菊	植物
3645	明治32年	秋の部	鱗閣の人誰々ぞ菊の花	菊	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3646	明治32年	秋の部	鳴子引老いては物に氣短き	鳴子	人事
3647	明治32年	秋の部	鳴子引楚の項王を怨みけり	鳴子	人事
3648	明治32年	秋の部	鳴子引秦時の民や法三章	鳴子	人事
3649	明治32年	秋の部	朝寒や白朝兒の花一ツ	朝顔	植物
3650	明治32年	秋の部	鯊釣や尾花に當る西入日	鯊釣	人事
3651	明治32年	秋の部	鶏頭も穂蓼も焦げてしまひけり	雑	雑
3652	明治32年	秋の部	枝豆や月南面の忠義堂	枝豆	植物
3653	明治32年	秋の部	落し水月は屋後に傾きぬ	落し水	地理
3654	明治32年	秋の部	物思へば夢定らず遠砧	砧	人事
3655	明治32年	秋の部	雨風や二百十日の家淋し	二百十日	時候
3656	明治32年	秋の部	思ふ事云はで桔梗の蒼哉	桔梗	植物
3657	明治32年	秋の部	長き夜の若宮を思ふ里居哉	夜長	時候
3658	明治32年	秋の部	草市や手にあまりたる物の数	草市	人事
3659	明治32年	秋の部	あざやかな願の糸や笹の露	露	天文
3660	明治32年	秋の部	少しつゝ焼米貰ふ寺子かな	焼米	人事
3661	明治32年	秋の部	油畫や玉川の里草の花	草花	植物
10587	明治32年	秋の部	裏街の踊もまじる踊かな	踊	人事
3866	明治33年	秋の部	朝貌のもの悲しくも咲き残り	朝顔	植物
3867	明治33年	秋の部	朝顔の一輪さきや濃紫	朝顔	植物
3868	明治33年	秋の部	朝顔の思ひや鉢の置所	朝顔	植物
3869	明治33年	秋の部	朝貌ののびるがまゝや花の数	朝顔	植物
3870	明治33年	秋の部	こて / \ と朝貌の鉢や俗和尚	朝顔	植物
3871	明治33年	秋の部	朝顔や水明かに星映り	朝顔	植物
3872	明治33年	秋の部	朝顔の花を描くや葉の緑	朝顔	植物
3873	明治33年	秋の部	朝顔や早起きをする胃の病	朝顔	植物
3874	明治33年	秋の部	朝顔の鉢碎けたり花の末	朝顔	植物
3875	明治33年	秋の部	朝顔を見て心よしかしまだち	朝顔	植物
3876	明治33年	秋の部	既にして秋暑からず水の家	残暑	時候
3877	明治33年	秋の部	秋暑し河伯を呪ふ川の壇	残暑	時候
3878	明治33年	秋の部	秋あつき此頃青き蝶出でぬ	残暑	時候
3879	明治33年	秋の部	秋あつく薬草實ること遅し	残暑	時候
3880	明治33年	秋の部	秋あつく御悩重らせ給ひけり	残暑	時候
3881	明治33年	秋の部	名月や伽羅たきすてゝ人もなし	名月	天文
3882	明治33年	秋の部	雨寒し刈残したる青き稻	稻	植物
3883	明治33年	秋の部	秋雨や人を弔ふ文をかく	秋の雨	天文
3884	明治33年	秋の部	しらげたる新米五升草の庵	新米	人事
3885	明治33年	秋の部	雁金も尾花も風に吹かれけり	雑	雑
3886	明治33年	秋の部	枝豆の殻ばかり憂きものはなし	枝豆	植物
3887	明治33年	秋の部	御題を賜ふ社頭の紅葉かな	紅葉	植物
3888	明治33年	秋の部	誰やらによう似た顔や相撲取	角力	人事
3889	明治33年	秋の部	相撲場に露したゝりぬ神の杉	角力	人事
3890	明治33年	秋の部	小相撲のだまされている揚屋哉	角力	人事
3891	明治33年	秋の部	乗込んだ東八ヶ國の角力哉	角力	人事
3892	明治33年	秋の部	先年の角力の跡や草の花	草花	植物
3893	明治33年	秋の部	妹にめぐり遇ひたる相撲かな	角力	人事
3894	明治33年	秋の部	小相撲や師匠の墓にすゝり泣	角力	人事
3895	明治33年	秋の部	酒飲めぬ相撲はさびし小杯	角力	人事
3896	明治33年	秋の部	相撲取の子を養へり男伊達	角力	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
3897	明治33年	秋の部	食あたりして小相撲の残りけり	角力	人事
3898	明治33年	秋の部	温めもせず磊塊に澆ぐ酒	温め酒	人事
3899	明治33年	秋の部	晨々の霜ふる秋に驚きぬ	秋	時候
3900	明治33年	秋の部	また青き神の銀杏や九月尽	九月尽	時候
3901	明治33年	秋の部	紅茸に云ひ寄る菌もありぬべし	茸	植物
3902	明治33年	秋の部	毒茸の毒とも見えぬ憎み哉	茸	植物
3903	明治33年	秋の部	松茸の老いて朽ちなん憤り	松茸	植物
3904	明治33年	秋の部	鎌倉は畑ばかりや星月夜	星月夜	天文
10516	明治33年	秋の部	葦一過の雨に吹かれけり	葦	植物
10517	明治33年	秋の部	湾々の芦の花風日の夕	芦の花	植物
10518	明治33年	秋の部	蘭を得て花をいやしむひしり哉	蘭	植物
10519	明治33年	秋の部	蝸や魯智院既に山を去る	蝸	動物
10520	明治33年	秋の部	いさゝかの橋銭を守る秋の雨	秋の雨	天文
10522	明治33年	秋の部	衰残の菊に友を得つ九月尽	九月尽	時候
10523	明治33年	秋の部	月正によるし軒端の通草棚	通草	植物
10524	明治33年	秋の部	六朝の碑を読む野菊かな	野菊	植物
10525	明治33年	秋の部	風流の旅路なるかな女郎花	女郎花	植物
10526	明治33年	秋の部	風雲の影ひやゝけき木末かな	木末	天文
10527	明治33年	秋の部	石躰の踏みにじりかり女郎花	女郎花	植物
10528	明治33年	秋の部	牛頭馬頭も踊り出したる一夜哉	踊	人事
10529	明治33年	秋の部	下草の青きを見るや櫨紅葉	櫨紅葉	植物
10530	明治33年	秋の部	戀中の渋柿をおくるか思無邪	渋柿	植物
10532	明治33年	秋の部	旅籠屋や芋の名月芋団子	芋団子	人事
10533	明治33年	秋の部	魂棚鼠尾草の花哀れなり	鼠尾草	植物
10534	明治33年	秋の部	稲の花すこし風吹くならひかな	稲の花	植物
10542	明治33年	秋の部	掛稲に日は當りけり蓼の花	蓼の花	植物
10543	明治33年	秋の部	鶏の子や露の草花或るは潜り	露	天文
10544	明治33年	秋の部	豆引いて鶏頭淋し瘦せながら	鶏頭	植物
10546	明治33年	秋の部	鄙に来て踊の唄や昔ぶり	踊	人事
10550	明治33年	秋の部	鬼灯の壳を捨てたり池の上	鬼灯	植物
10551	明治33年	秋の部	驚きし夜寒の里や山あらし	夜寒	時候
10552	明治33年	秋の部	蕎麥咲や晴れたる川の照反し	蕎麥	植物
10562	明治33年	秋の部	甘酒を飲んで旦の暇乞	甘酒	人事
10565	明治33年	秋の部	朝顔や朝戸あけたる典座敷	朝顔	植物
10566	明治33年	秋の部	小淋しく雨降る宵や高燈籠	燈籠	人事
10567	明治33年	秋の部	虫鳴くや落窪の君人を待つ	虫鳴く	動物
10568	明治33年	秋の部	名月や馬上ゆゝしき金覆輪	名月	天文
10570	明治33年	秋の部	新渋の瓶に日あたる戸口なか	新渋	人事
10571	明治33年	秋の部	南山の秋に対して澹如たり	秋	時候
10572	明治33年	秋の部	逞しき渋柿の木や古き家	渋柿	植物
10573	明治33年	秋の部	芍薬の根を分けて或は薬とす	芍薬の根	植物
10574	明治33年	秋の部	菊咲いて酒の琥珀の光あり	菊	植物
10575	明治33年	秋の部	稻刈りて積蓼に夕日當りけり	稻刈	人事
10535	明治33年	秋の部	ひやゝかに覚えてさめし宵寝哉	冷か	時候
10536	明治33年	秋の部	鹿笛に依々たる鹿の想ひかな	鹿笛	動物
10537	明治33年	秋の部	鳴子引く郡の太守を見送りぬ	鳴子引く	人事
10538	明治33年	秋の部	冷やしたる梨の皮むく刃哉	梨	植物
10541	明治33年	秋の部	妻なくて砧の盤の夜露かな	砧	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10545	明治33年	秋の部	老いて猶砧うつなる母悲し	砧	人事
10549	明治33年	秋の部	小鳥狩愚に生れたる家老の子	小鳥狩	人事
10576	明治33年	秋の部	臨終の物たまはぬ夜寒かな	夜寒	時候
10539	明治33年	秋の部	靱磨や奥に泊めたる俳諧師	靱磨	人事
10540	明治33年	秋の部	靱磨の歌も歌はぬか夫婦哉	靱磨	人事
4085	明治34年	秋の部	草花も悲しとや見む親にして	草花	植物
4086	明治34年	秋の部	虫の音にあこがるゝ身も恋にこそ	蟲	動物
4087	明治34年	秋の部	思ひつゝ寐よとや虫の鳴くならん	蟲	動物
4088	明治34年	秋の部	草に鳴く虫や月夜のたまり水	蟲	動物
4089	明治34年	秋の部	鳴く虫の其父をよび母をよび	蟲	動物
4090	明治34年	秋の部	踊夜の西する月ややるせなき	踊	人事
4091	明治34年	秋の部	故郷に一ト夜は踊るなつかしみ	踊	人事
4092	明治34年	秋の部	樂みは昔ながらの踊かな	踊	人事
4093	明治34年	秋の部	踊見に出たいと思ふ夕餉哉	踊	人事
4094	明治34年	秋の部	蛇の身の斑に光り秋暑し	残暑	時候
4095	明治34年	秋の部	関白の様な兒して瓢かな	瓢	植物
4096	明治34年	秋の部	かき買と去来と見上く梢かな	柿	植物
4097	明治34年	秋の部	渋かるとなぶられ去ぬ柿をなご	柿	植物
4098	明治34年	秋の部	柿食へばどこか渋いかなどゝ禪	柿	植物
4099	明治34年	秋の部	しぶかきや載ち奔る陶淵明	柿	植物
4100	明治34年	秋の部	新藁に且ちる柿の紅葉哉	柿紅葉	植物
4101	明治34年	秋の部	落人に歌を讀みけり木賊刈	木賊刈	人事
4102	明治34年	秋の部	濁酒に赤菊の宿も小うれしき	菊	植物
4103	明治34年	秋の部	落鮎の網に入りけり暮の雨	鯖鮎	動物
4104	明治34年	秋の部	庭鳥に紫菀の露や吹きつける	紫菀	植物
4105	明治34年	秋の部	峯入は皆柿道心とや申す	柿	植物
4106	明治34年	秋の部	落雷の杉の一ト木や草紅葉	草錦	植物
4107	明治34年	秋の部	日に當る岩の裸や蔦紅葉	蔦紅葉	植物
4108	明治34年	秋の部	何虫の身にしみどゝと鳴音かな	蟲	動物
4109	明治34年	秋の部	鱚引あすは雨ちやと申しけり	鱚引	人事
4110	明治34年	秋の部	登臨の客鯉魚風に嘆ずらく	秋の風	天文
4111	明治34年	秋の部	一尺の布を縫ひある夜寒かな	夜寒	時候
4112	明治34年	秋の部	二氣未だ合はず恁麼の瓢かな	瓢	植物
4113	明治34年	秋の部	三逕や秋の氣を吐く松の老	秋	時候
4114	明治34年	秋の部	四方皆嶽恐ろしき月夜かな	月	天文
4115	明治34年	秋の部	五音和す月夜の鐘や水の上	月	天文
4116	明治34年	秋の部	清瀨の上を且ちる日の夕	且散る	植物
4117	明治34年	秋の部	虫鳴いて物のあはれと覚えけり	蟲	動物
4118	明治34年	秋の部	虫の音の露に消入る思ひかな	蟲	動物
4119	明治34年	秋の部	鳴虫の玉をころがす美音哉	蟲	動物
4120	明治34年	秋の部	虫鳴くや憂さに堪へざる小夜衣	蟲	動物
4121	明治34年	秋の部	魑魅去て木に住む虫の鳴くさびし	蟲	動物
4122	明治34年	秋の部	宿貧し虫の来て鳴く古壘	蟲	動物
4123	明治34年	秋の部	客泊めて浮世話や踊の夜	踊	人事
4124	明治34年	秋の部	月に打つ踊太鼓や人少な	踊	人事
4125	明治34年	秋の部	寺の樹をとよもす踊太鼓かな	踊	人事
4126	明治34年	秋の部	漢宮の踊秦時の名月に	踊	人事
4127	明治34年	秋の部	雨雲を恐れ心の踊かな	踊	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4128	明治34年	秋の部	三人の娘踊のたくみ哉	踊	人事
4129	明治34年	秋の部	疫ありて小村につどふ踊かな	踊	人事
4130	明治34年	秋の部	ありたけの水を吐いたる糸瓜哉	糸瓜	植物
4131	明治34年	秋の部	養老の賜もあり稲の花	稲の花	植物
4132	明治34年	秋の部	松の実を踏んで境内ありきけり	新松子	植物
4133	明治34年	秋の部	唐きびの影も月夜の眺かな	唐黍	植物
4134	明治34年	秋の部	つと入を待まうけたる主哉	衝突入	人事
4135	明治34年	秋の部	犬殺梨の木老いて実らざり	梨	植物
4136	明治34年	秋の部	ながらへて何の糸瓜のぶら下り	糸瓜	植物
4137	明治34年	秋の部	蠹ふるやうはばみ穴に入る夕	蛇穴に入る	動物
4138	明治34年	秋の部	蛇穴に入りてしまひしけはひ哉	蛇穴に入る	動物
4139	明治34年	秋の部	戀蛇の穴に入るべき別かな	蛇穴に入る	動物
4140	明治34年	秋の部	蛇穴に入るや彼岸の日は西へ	蛇穴に入る	動物
4141	明治34年	秋の部	蛇穴に入る頃草のにしきかな	蛇穴に入る	動物
4142	明治34年	秋の部	蛇穴に入らんと思ふ覚悟かな	蛇穴に入る	動物
4143	明治34年	秋の部	人の世はこんなものとして蛇穴へ	蛇穴に入る	動物
4144	明治34年	秋の部	草を打ち蛇をして穴に入らしめぬ	蛇穴に入る	動物
4145	明治34年	秋の部	蛇穴に入れば松風蘿月哉	蛇穴に入る	動物
4146	明治34年	秋の部	蛇穴に入りてみゝづの唄ひかな	蛇穴に入る	動物
4147	明治34年	秋の部	宮様の茲に御成や草錦	草錦	植物
4148	明治34年	秋の部	畏しや武徳は秋の氣の如し	秋	時候
4149	明治34年	秋の部	風を切てそれ矢の行くへ秋の空	秋の空	天文
4150	明治34年	秋の部	秋風を斬て太刀鳴る壯ん也	秋の風	天文
4151	明治34年	秋の部	蓮の実の飛ぶよと見れば柔ら哉	蓮實飛ぶ	植物
4152	明治34年	秋の部	秋駒の勝ほこりたる足掻哉	馬肥ゆる	動物
4153	明治34年	秋の部	自転車を下りて紫苑に歩みよる	紫苑	植物
4154	明治34年	秋の部	唐にしき大和にしきや花千草	草花	植物
4155	明治34年	秋の部	音楽の空に聞ゆる月夜哉	月	天文
4156	明治34年	秋の部	麦酒のんでそぞろ寒兒してゐたり	そぞろ寒	時候
4157	明治34年	秋の部	蓮の実の飛とも知らで達磨哉	蓮實飛ぶ	植物
4158	明治34年	秋の部	蓮の実の飛とは見えてうつゝ哉	蓮實飛ぶ	植物
4159	明治34年	秋の部	菊は皆蒼なりけり後の雛	後の雛	人事
4160	明治34年	秋の部	朝戸出のみかん畑や秋の霜	秋の霜	天文
4161	明治34年	秋の部	水をふいて大きな梨や二ツわり	梨	植物
4162	明治34年	秋の部	徒らに物の悲しき花野哉	花野	地理
4163	明治34年	秋の部	沙魚釣の沙魚やく店や新走	新酒	人事
4164	明治34年	秋の部	秋風の藪も鳥もぬかご哉	秋の風	天文
4165	明治34年	秋の部	よき虫の選にもれし美音哉	蟲	動物
4166	明治34年	秋の部	新蕎麦に芭蕉の噂したりけり	新蕎麥	人事
4167	明治34年	秋の部	豆引に誘はる朝の日和かな	豆引	人事
10554	明治34年	秋の部	紅葉狩白衣の人に逢へりけり	紅葉狩	人事
10555	明治34年	秋の部	君見ずや松露は松の露と書く	露	天文
4567	明治35年	秋の部	秋の水仙家の鍋を閑却す	秋の水	地理
4568	明治35年	秋の部	釣人の夕腹へりぬ萩の風	萩	植物
4569	明治35年	秋の部	朝顔に日あたる頃や暇乞	朝顔	植物
4570	明治35年	秋の部	初嵐夜天文を覗ひぬ	初嵐	天文
4571	明治35年	秋の部	月明の清きに耐へす桐一葉	桐一葉	植物
4573	明治35年	秋の部	なく虫の今宵もなきぬ然れども	蟲	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
4575	明治35年	秋の部	別れんとすれば一劔秋に鳴る	秋	時候
4576	明治35年	秋の部	僧よりも瘦せたる蘭の緑かな	蘭	植物
4577	明治35年	秋の部	蘭を獲て氣傲る人や去にけり	蘭	植物
4578	明治35年	秋の部	幽谷に蘭あり美ナル哉之ノ子	蘭	植物
4579	明治35年	秋の部	風蘭の姿や轉夕君を思ふ	蘭	植物
4580	明治35年	秋の部	蘭に鳴く虫に紙燭や兒の顔	蘭	植物
4581	明治35年	秋の部	西瓜きれば故人偶々過ぎりけり	西瓜	植物
4582	明治35年	秋の部	戀歌の秋の部よみぬ小夜枕	秋	時候
4583	明治35年	秋の部	西瓜喰ふ宵の剪燈新話哉	西瓜	植物
4584	明治35年	秋の部	庭上の爽氣や粥をすゝりけり	爽か	時候
4585	明治35年	秋の部	秋寒し雨にうたるゝ紅芙蓉	芙蓉	植物
4586	明治35年	秋の部	目さむれば蚊帳の萌黄も九月哉	九月	時候
4587	明治35年	秋の部	枝豆や月明らかに人の兒	枝豆	植物
4588	明治35年	秋の部	蝶の翼秋海棠に力なし	秋海棠	植物
4589	明治35年	秋の部	捨扇さながら人の戀しけれ	秋扇	人事
4590	明治35年	秋の部	寂として蘭に水わく山の中	蘭	植物
4591	明治35年	秋の部	旭巳にとんぼ飛ぶなり花芙蓉	芙蓉	植物
4592	明治35年	秋の部	白きものに愛着もなき木槿哉	木槿	植物
4593	明治35年	秋の部	長吉が出世取巻く角力かな	角力	人事
4594	明治35年	秋の部	目指されて踊出でたり男振	踊	人事
4595	明治35年	秋の部	踊から呼戻されし一人哉	踊	人事
4596	明治35年	秋の部	薬園の花こぼれけり秋の水	秋の水	地理
4597	明治35年	秋の部	唐黍に月落かゝる野分哉	野分	天文
4598	明治35年	秋の部	唐黍にかくるゝ戀や尻の冷え	唐黍	植物
4599	明治35年	秋の部	釣竿も見えず萩吹く風ばかり	萩	植物
4600	明治35年	秋の部	岩上の松影をふむ氣爽か	爽か	時候
4601	明治35年	秋の部	朝兒の主はわかし文章生	朝顔	植物
4602	明治35年	秋の部	早稲の香や病もいえてかしま立	稻	植物
4603	明治35年	秋の部	早稲咲いて水こゝろよき旦哉	稻	植物
4604	明治35年	秋の部	臨濟の口の廣さよ蓮の実が	蓮實飛ぶ	植物
4605	明治35年	秋の部	白萩を佛の花と手折りけり	萩	植物
4606	明治35年	秋の部	無東西只秋風の声をきく	秋の風	天文
10583	明治35年	秋の部	秋涼し人の眼に立つ大構ひ	秋涼し	天文
10591	明治35年	秋の部	草花をよしとよく見て描かれし	草花	植物